

令和 6 年度当初予算に係る施策設計図の見直し

- R6年度当初予算編成において、部局にとらわれないテーマを設定（14部局等 23テーマ）
- ウェルビーイング指標を活用し、「施策設計図」※を作成

※施策設計図とは？

・施策の論理的な構造を明示する「ロジックモデル」をベースに、ウェルビーイングの要素を取り入れたもの

① 県民のウェルビーイング向上をゴールとして常に意識

② 施策及びその成果がどう課題解決やウェルビーイング向上に繋がるのか、その流れをわかりやすく体系的に示す



R 7 年度当初予算編成にあたり、施策進捗や状況変化を踏まえた見直しを実施

(注)

・施策設計図中のウェルビーイング指標を最新値（R6調査数値）に更新

・☆、★はそれぞれ、人口未来構想、「人口未来戦略」提言の推進に向けて作成した、令和 7 年度施策設計図からの再掲事業

施策テーマ一覧

1 “チャレンジ”と“つながり”から育む、若い世代のウェルビーイング

- ① 若者・子どもを取り巻く“つながり実感”の充実
- ② 就職期の女性に選ばれ、女性が活躍できる環境づくりの推進
- ③ 子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす学びの推進
- ④ 子どもの健やかな成長を支え、元気を創造する学びの推進
- ⑤ 県が保有・保管する史資料へのアクセス向上と積極的な活用促進
- ⑥ つなぐ・とやま都市農山漁村交流の推進

2 “働きがい”と未来への希望を高める、働き盛り世代のウェルビーイング

- ① “働きがい”を実感できるウェルビーイング経営の推進
- ② 県民が富山の自然や食などの幸せの基盤に誇りと愛着を持ち、自分の能力を活かして働くことができる富山県
- ③ 県内事業者のGX社会への的確な対応による持続可能な成長の実現
- ④ サーキュラーエコノミー（循環経済）の推進によるものづくり産業の新たな価値の創造
- ⑤ 県職員のエンゲージメント・ウェルビーイング向上による質の高い行政サービスの持続的な提供
- ⑥ 公金・会計事務のデジタル化による行政サービス向上と県庁の業務改革との好循環創出

3 “共助”で支え・高め合うウェルビーイングの輪の広がり

- ① 地域防災力向上による安全・安心実感の充実
- ② 支え・支えられる共助社会の実現
- ③ 高齢者が犯罪に巻き込まれることなく、安全で安心して過ごすことのできる環境づくり
- ④ デジタル変革で紡ぐワクワクする富山県づくり

4 ウェルビーイングを守り・支える“幸せの基盤”の保全と発展

- ① ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスの実現
- ② ウェルビーイングを支え、高める住まいの確保
- ③ 県民の命を守り、ウェルビーイングを支える強靱な公共インフラの整備
- ④ 県営電気・水道の安定供給とSDGsへの貢献
- ⑤ 食を通じた県民の幸せ実感の向上
- ⑥ 様々な人が地域とのつながりを実感し、自分らしくいきいきと暮らすことのできる富山の未来に向けた地域づくり
- ⑦ 「デコ活ー脱炭素につながる新しい豊かな暮らしー」の取組み拡大

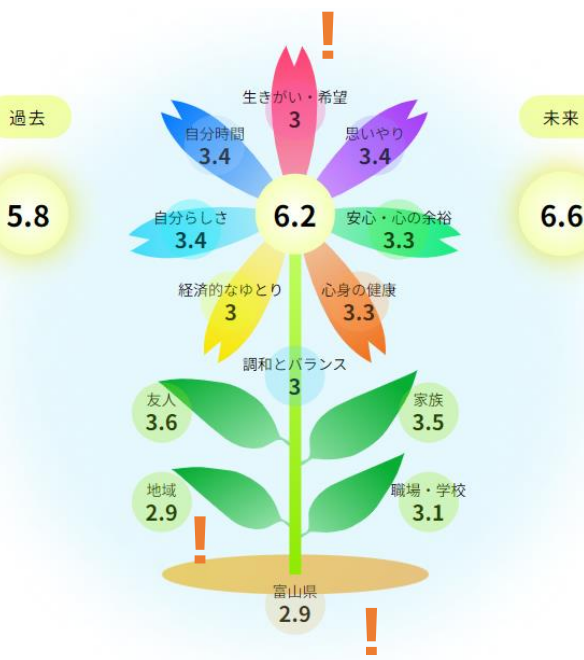
1 “チャレンジ”と“つながり”から育む、若い世代のウェルビーイング

関連指標等

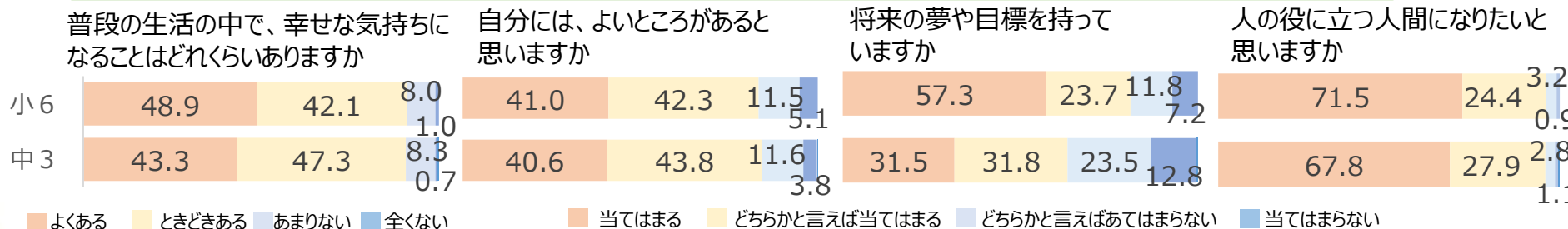
15～29歳（全体）のウェルビーイング指標の状況

	なないろ指標（抜粋） ^{4段階（1～4）}					つながり指標（抜粋） ^{4段階（1～4）}			総合指標（抜粋） ^{11段階（0～10）}							
	生きがい・希望	①やりがい・生きがい	②困難を乗り越えられる	③夢や目標にチャレンジ	④将来に期待、楽しみ	地域	③楽しい、嬉しい場所・機会	④意見、価値観理解・尊重	富山県	②意見、価値観理解・尊重	③成長の学び・経験	④夢や目標の実現	⑤未来に期待、楽しみ	⑥愛着や誇り	現在	未来
15～29歳	3.01	3.11	3.06	3.00	2.86	2.89	2.61	2.91	2.91	3.08	3.00	2.85	2.47	3.25	6.24	6.58
15～19歳	3.21	3.30	3.17	3.26	3.13	3.08	2.81	3.11	3.09	3.32	3.23	3.06	2.68	3.33	6.64	6.95
20～24歳	2.96	3.08	3.05	2.94	2.79	2.82	2.57	2.83	2.91	3.03	2.93	2.79	2.50	3.31	6.18	6.51
25～29歳	2.64	2.76	2.86	2.53	2.43	2.55	2.23	2.51	2.54	2.60	2.55	2.43	2.03	3.05	5.54	5.90

（参考）15～29歳（全体）のウェルビーイング指標の状況



小学校6年生・中学校3年生の状況（R6全国学力・学習状況調査（児童／生徒質問紙調査）



指標の状況を踏まえた施策の方向性

- ◆ 様々な**チャレンジ**や**経験**を通じて、将来に**期待**や**楽しみ**を持つことができる取組み
- ◆ **地域**の中で、**明るく前向きな気持ち**を感じられる取組み
- ◆ 世代間など**多様な人との交流**が**活発化**し、**相互理解**や**インクルーシブ**が広がる取組み
- ◆ 地域や富山県との**“つながり”**を感じ、**誇り**や**愛着**を更に高める取組み

1 - ① 若者・子どもを取り巻く“つながり実感”の充実

【知事政策局】

若者や子どもが、様々な人との良好なつながりや活動を通して、地域や富山県への愛着や誇りを感じられている。意見が尊重され、チャレンジを促す環境があり、積極的に地域や社会に関与・貢献できている。

ありたい姿・実現したい未来

課題

- ・ウェルビーイングは、10代は比較的高い傾向にあるが、20代（特に後半）から低下。全体的に前向きな意識やつながりが低くなる傾向。下げない→維持・向上に繋げる必要
- ・所属を越えた異世代・同世代との交流、地域での活動など「つながり」を自覚し深める機会が必要
- ・自分自身を肯定的に捉え、チャレンジする気持ちを尊重、後押しできる環境づくり
- ・15歳未満のWBデータの活用

背景・現状

○ウェルビーイング指標

- ・つながり実感（地域）
10代：3.08 20代：2.69
※地域には明るい気持ちになる場所や機会が多くある、が（同2.81、2.41）低い傾向
- ・つながり実感（富山県）
10代：3.09 20代：2.72
※未来への期待が（同2.68、2.26）低い傾向
- ・生きがい・希望実感
10代：3.21 20代：2.80
※20代はチャレンジ（2.73）、10～20代は将来の期待、ワクワクが低い傾向（同3.13、2.61）
- ・総合実感（現在）
10代：6.64 20代：5.85

対象

10～20代の若者・子ども、周囲の大人

特に

10～20代前半、進学・就職期の若者・子ども

実施事業
(インプット)

- I つながり実感充実**
- ① **ウェルビーイング・ロゲイニング事業** 400万円*
・WBの各要素に繋がるロゲイニングの横展開
 - ② **ウェルビーイング・デジタルコミュニティ活性化支援事業★** 350万円
 - ③ **【連携】しあわせを伝えよう！ 絵てがみ募集事業** (生環) 700万円
・WBテーマの絵てがみ公募、イベント
- II チャレンジ応援**
- ① **とやまスタートアップ「T-Startup」創出事業のうち若者創業機運醸成** ☆(商労)350万円
 - ② **高校生首都圏インターンシップ事業** ☆300万円
 - ③ **【連携】若者・大学・企業等協働・連携促進事業** (生環) 80万円
 - ④ **【連携】NPOチャレンジプロジェクト事業** (生環) 60万円
 - ⑤ **【連携】関係人口1000万人協働促進事業のうちワカモノ活動推進** 465万円の内数
- III 子どものウェルビーイング調査** 30万円*
(教委と連携)

直接の結果
(アウトプット)

- I**
- ① 高校生、大学生、新社会人等の若者世代や、異世代ミックスなどWB指標の状況からターゲットを特定し、テーマを設定した大会2回程度、計100名程度
※企画・運営に生徒等も参画
 - ② コミュニティイベント5回
 - ③ 応募者1000名想定
絵手紙教室1回、表彰式・トークイベント1回 200名程度
- II**
- ① 事前セミナー2回×20名、起業体験プログラム(マルシェ)4校
 - ② 高校生15名程度
 - ③ 交流会1回
NPO・大学生90名程度
 - ④ 大学生参加 30名程度
 - ⑤ 採択5件程度
- III** 小3、小5、中1、中3を対象に調査

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

- ・地域や富山県の良さの再認識、愛着・誇り、つながり醸成（富山県を自信を持って誇れる人の増）
- ・気持ちが明るく・楽しくなる機会の増
- ・多様な居場所の提供
- ・家族や友達等周囲の人とのつながりの気づき、深まり
- ・他世代・同世代交流の広がり、他者への関心、相互理解
- ・自分自身を肯定的に捉え、積極的にチャレンジする意欲の向上
- ・若者のチャレンジの場の多様な選択肢を提供
- ・地域や社会に積極的に関与し、貢献できる自己有用感の向上
- ・前向きなチャレンジ、意思決定を周りが尊重し、実現を応援できる環境づくり
- ・子どものウェルビーイング施策の効果的展開、子どもWB向上

ウェルビーイング向上

つながり（地域／友人）

- ・様々な人との交流、相互理解
- ・地域で前向きな気持ちになる
- ・地域での自己有用感

つながり（富山県）

- ・意見や価値観を理解・尊重する環境づくり
- ・期待や楽しみ、ワクワクする気持ち
- ・自然や食、文化等への愛着・誇り

生きがい・希望

- ・目標を持ちチャレンジする心
- ・やりがい・生きがいの実感
- ・楽しみ、ワクワク感の向上

- ・若者が自発的・主体的に地域・人を紡ぎ・広げる活動が展開されている
- ・そうした活動を、周りが後押し・協力できている

*は、若者・子どものつながり実感充実事業

1 - ② 就職期の女性に選ばれ、女性が活躍できる環境づくりの推進

- ・県外に出ても富山県とのつながりを維持し、就職先の選択肢に県内企業が入っていること。
- ・若者（特に女性）がやりがいをもって活躍できる企業がたくさんあり、若者がそれを認知していること。

ありたい姿・実現したい未来

課題

- ・就職期の20～24歳の女性の転出が顕著
- ・ウェルビーイングは、10代女性は相対的に高いものの、20代女性は、職場・学校とのつながり、生きがい・希望実感が低い状況
- ・企業が若者（Z世代）の価値観の変化に対応できていない。

背景・現状

- 社会減(R6)
15-34歳：女△483、男△60
うち20-24歳：女△384、男178
- ウェルビーイング指標
・生きがい・希望実感（男/女）
15～19歳 3.22 (3.22/3.22)
20～29歳 2.80 (2.83/2.78)
・つながり（職場・学校）（男/女）
15～19歳 3.34 (3.31/3.36)
20～29歳 2.89 (2.92/2.87)
・つながり（富山県）（男/女）
15～19歳 3.09 (3.14/3.05)
20～29歳 2.72 (2.72/2.73)
- 県外で就職等した学生が企業を選ぶ際に重視したこと(R4)
・やりがいのある仕事ができそう
女性53.6% > 男性46.1%
・賃金が高いこと
女性30.0% < 男性38.2%

対象

中高生、大学生（県内・外） ※特に女性

実施事業
(インプット)

- I 中高生と“働きがいのある”県内企業との「つながり」創出**
- ① **（拡）**理工系にチャレンジ！「中高生×富山で働く女性」交流促進事業 350万円
- II 女性が活躍できる環境整備**
- ① **（新）**女性の活躍促進官民連携事業 770万円
 - ② 働き方改革・女性活躍サポート事業 450万円
 - ③ **（新）**アンコンシャスバイアス・アンバサダー強化事業★400万円
- III UIターン、県内就職支援**
- ① **【連携】（新）**富山の企業魅力発信プロジェクト事業☆（商労） 1,580万円
 - ② **【連携】**学生と企業の交流強化事業☆（商労） 640万円
 - ③ **【連携】**とやま移住魅力発信・強化事業（地創） 1,115万円

直接の結果
(アウトプット)

- I～IIIの事業による巻き込み効果**
中高生8,000名、大学生等7,500名
企業数1,000社
- I ①-1:交流会・バスツアー 3回・60名
 - ①-2:モデル校2校・300名
SNS発信等による全校周知
 - II ①:プラットフォーム参加 100社
ロードマップ作成 20社
 - II ②:ソフト補助 17社
 - II ③:アンコン解消(地域・企業) 20事例
 - III ①:企業PR動画(3企業×2テーマ)、大学生等へのLINEプッシュ型情報発信(月2～4回)
 - III ②-1:大学生等(1,2年生等)と若手社員との交流会 5回・400名
 - III ②-2:県内企業バスツアー 10コース・250名
 - III ③:富山移住・しごとフェア(リアル3回)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

- ・中高生の県内企業への関心が高まる。
県内企業で活躍し成長している将来の自分の姿がイメージできる。
県外に進学しても、県内企業への関心を持ち続ける。
- ・県内企業が若者の価値観の変化に対応した職場づくり・就職情報の発信を行う。
- ・学生に“首都圏企業に負けない”県内企業の魅力が正しく伝わり、県内就職につながる。

県内で働く若者

ウェルビーイング向上

- 現在の10代の高いウェルビーイングを20代になっても維持・向上
- 生きがい・希望**
- ・将来に期待やワクワク感
- ・目標に向かってチャレンジ
- つながり（職場・学校）**
- ・やりたいこと、目標の実現
- ・職場への愛着、誇りを感じる
- つながり（富山県）**
- ・富山県で自分が成長できる、夢や目標が実現できる期待感

1 - ③ 子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす学びの推進

子どもたちが、基本的な知識・技能とともに探究力や問題発見・解決能力を身につけ、技術革新が急速に進展する社会の中で、多様な価値観を持つ人々と連携・協働しながら、自らの可能性を発揮し未来を切り拓く

ありたい姿・
実現したい未来

課題

- 「将来の夢や目標をもっている子どもの割合」は、全国比較で同程度であるが、**主要6か国との比較「18歳意識調査」**では、**自分の目標、誇れる個性を持っていない子どもが多い**（G7を踏まえたウェルビーイングの向上策が必要）
- 子どもの才能や個性を伸ばす必要があるが、**教員の働き方改革や授業単位の制約から学校内における学習活動での対応では限界がある**

背景・現状

- **全国学力・学習状況調査 (R6)**
「夢や目標をもつ子ども」の割合
小6 81.0% (全国82.4%)
中3 63.3% (全国66.3%)
- **18歳意識調査 (R4)**
「目標や方向性がある」60.6%
「人に誇れる個性がある」47.9%
- **能力開発基本調査 (R5)**
「企業が求めるスキル」の課題解決スキル 30.6%
- **ウェルビーイング指標**
15～19歳平均 (学生)
・**生きがい・希望**の「夢に向かってチャレンジしている」**3.28**
・**自分らしさ**の「自分らしくありのままでいられる」**3.46**
・**つながり (学校)**の「自分の夢を実現する場である」**3.38** 等

対象

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・
特別支援学校で学ぶ子ども

特に

特に中学校・義務教育学校・高等学校における進学や就職を控えた子ども

実施事業
(インプット)

直接の結果
(アウトプット)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング向上

I STEAM教育・課題解決型教育の推進

- ① **(新) 次世代創出PBL推進事業**
☆3,366万円
- ② 高校生のアートキャリア
プランニング支援事業 140万円
- ③ 令和のとやま型教育推進
事業 427万円

II チャレンジする子どもへの支援

- ① **(新) 職業系専門学科チャレンジ
推進** ☆ 356万円
- ② ものづくり人材の育成
350万円

III 多様な人々との連携

- ① 高校オープンイノベーション
支援事業 ☆ 1,074万円
- ② アカデミック・インターンシップ ☆
108万円

IV ウェルビーイング調査(小中学生)

- 【連携】子どものウェルビーイング
調査 (知政) 30万円

I STEAM教育・課題解決型教育の推進

- ①(1) P B L 実施校 52校
// (2) グローバルリーダー育成支援8校
// (3) 合同発表会での発表 20校
- ②(1) 高校生事業参加 20人
// (2) イベント参加 200人
- ③(1) 研究委託 全市町村実施
// (2) 令和のとやま型教育推進
研修会 2回開催

II チャレンジする子どもへの支援

- ① 実践的な体験活動等の実施
24校
- ② 企業・公設試見学会の
参加者数約1,500人

III 多様な人々との連携

- ① 訪問・聞き取り 39校
(全県立高校)
- ② 県内5大学・短期大学
全20講座開催、参加 300人

IV ウェルビーイング調査(小中学生)

- ①小3、小5、中1、中3を対象に調査

・課題の発見・解決や社会的な
価値の創造に結びつけていく
資質・能力の向上

・子どもたちが自身の可能性を
信じて積極的に**チャレンジする
意欲の向上**

・多様な人々と交流することで、
**他者への関心、相互理解が
深まる**

・就職希望者と企業とのミスマッチ
がさらに解消されることによる、

- ① **全国トップクラスの高等学校
卒業生の就職率の維持**
- ② **就業者の卒業後3年以内
離職率の減少**

生きがい・希望

- ・様々な困難を乗り越える力
- ・目標を持ちチャレンジする心
- ・将来への楽しみ、ワクワク感

自分らしさ

- ・自分の選択や行動は自らの
意思で決める
- ・自分らしく、ありのままにいる

つながり (学校)

- ・学校間や大学など様々な人と
の交流、相互理解
- ・学校で前向きな気持ちになる
- ・学校に愛着や誇りがある

すべての子どもたちが、学びの場において、豊かな心を身につけ、健やかに成長するとともに、特別な支援が必要な子どもが、自立し、社会参加することを目指す

ありたい姿・実現したい未来

課題

- ・いじめ・不登校ともに増加傾向にあり、子どもが抱える悩み・不安等に加え、家庭等の環境も要因となるなど複雑化
- ・特別支援学級、通級による指導を受ける児童生徒が増加傾向
- ・国連から分離教育を廃止し、障害の有無にかかわらず共に学ぶ「インクルーシブ教育」を進めるよう求められている

背景・現状

- **全国学力・学習状況調査**
「いじめはいけないことだと思う」小6 97.0%、中3 96.7%
「先生にいつでも相談できる」小6 68.4%、中3 68.2%
- **問題行動等調査**
いじめ認知件数 31.6件/千人
不登校児童生徒数 3,255人
- **通級指導児童生徒数** 3,567人
- **ウェルビーイング指標**
15～19歳平均（学生）
・心身の健康の「心は健康と感じている」3.41
・安心・心の余裕の「安らげる場所がある」3.63
・思いやりの「異なる価値観でも尊重している」3.53
・つながり(学校)の「学校での人間関係は良好である」3.51
・生きがい・希望 3.25 等

対象

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校で学ぶ子ども

特に

発達段階に応じて

実施事業
(インプット)

直接の結果
(アウトプット)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング向上

- I いじめ・不登校対策**
- ① ⑧ SC・SSWの配置 ☆ 2億4,487万円
 - ② フリースクール等通所児童生徒への支援 ☆ 1,003万円
 - ③ 【連携】⑨ こども総合サポートプラザ運営事業（厚生） ☆ 3,954万円
 - ④ 【連携】⑨ こども安心センター（仮称）整備事業（厚生） ☆ 10億6,650万円
- 〔 学びの場、富山児相、児童心理治療施設合算 〕
- II インクルーシブ教育等**
- ① 高・小中巡回指導員の配置 990万円
 - ② SDGsインクルーシブ教育システムの推進 ☆ 384万円
 - ③ ⑨ 外国人児童生徒等教育体制充実事業 ☆ 17万円+加配教員人件費（4人分）

- I いじめ・不登校対策**
- ① SC相談件数 4万件、SSW相談件数 1,300件
 - ② 支援児童生徒数 150人
 - ③ のべ相談件数（見込）約7,200件（各機関合算）
 - ④ 学びの場の学級数 9学級、定員 45人
- II インクルーシブ教育等**
- ① 学校訪問回数 500回
 - ② (1) 学校訪問回数 60回
〃 (2) 特別支援教育コーディネーターリーダー養成数 約70人
〃 (3) 特別支援教育コーディネーターリーダー研修会 2回開催
〃 (4) インクルーシブ教育推進フォーラム 1回開催
 - ③ スーパーバイザーの配置

- ・相談機会が増え、いじめ解消率が上昇
- ・多様な学びの場や居場所が拡がり、不登校児童生徒数が減少
- ・地域の特別支援教育推進の中核となる特別支援教育コーディネーターの資質向上・通常の学級の環境整備充実による、
 - ① 特別支援学級から通常の学級へ学びの場を見直す子どもの増加
 - ② 支援方法を工夫して通常の学級で学び続けられる子どもの増加
- ・障害のある子どもとない子どもが共に学び、他者への関心、相互理解が深まる

- 心身の健康**
・心の状態が健康だと感じる
- 安心・心の余裕**
・心から安らげる場所がある
・明るい気持ちになる
- 思いやり**
・他者への関心、相互理解が深まる
- つながり（学校）**
・学校での人間関係は良好
・学校で明るい気持ちになることが多い
- 生きがい・希望**
・生きがいを感じられている
・将来への期待、楽しみを持つ

1 - ⑤ 県が保有・保管する史資料へのアクセス向上と積極的な活用促進

【経営管理部】

史資料のデジタル化が進み、ふるさと教育への活用やオープンデータ化を通じ、郷土への理解と愛着が深まっている。

ありたい姿・実現したい未来

課題

- ウェルビーイング指標「生きがい・希望」「つながり」など若い年代ほど高い
- 富山県への愛着30代を底に若い年代が低い→若い世代ほど地域やふるさとが自分を理解し、成長させる環境だと思ふ反面、それが愛着につながっていない
- 史資料は十分活用されているとは言い難い

背景・現状

- **ウェルビーイング指標**
10～20代平均 > 30代以降
総合実感（現在）6.24
生きがい・希望 3.01
つながり（地域）2.89
つながり（富山県）2.91
- 県政世論調査「富山県に愛着がある」の「とても愛着がある」10代:39.4%、20代32.2%、30代:23.4%、40代32.2%、50代34.7%、70以上42%
- 若者の県内定着 86.7%
- 15～29歳社会移動(R5) 女性△555、男性△207

対象

10代～20代の若者

特に

教育課程にある、進学期や就職前の子ども・若者

実施事業
(インプット)

直接の結果
(アウトプット)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング向上

I 資料の保全・デジタル化

- ① マイクロフィルム史料
デジタルデータ化 390万円

II 若者へ史資料のふれあい体験の場の提供

- ① 史資料ふれあい体験会 30万円
※親子教室(埋文センター、高志の国文学館等)、図書委員会(学校図書館)への出前講座を活用し、検索体験などを実施(生環、教委と連携)

- ②【連携】ウェルビーイング・ロゲイニング事業(知政) 400万円

- I ① デジタルデータ化(300件/年) → 各施設に出向かなくてもインターネット上で自由に見られる資料の増加
R4:66件 → R8:1,266件

- 県の貴重な記録の保全

- II ● 親子教室や出前講座を通じて児童生徒がデータベースやオープンデータの検索・活用方法を身につけると同時に、地域の歴史や記録に関する関心が高まる。
R5:0件 → R6以降:5件

- 地域の歴史や文化を理解し、先人達の努力を知ることによって、自分の住む地域や富山県に誇りと愛着を持つ(県外に出ても、ふるさとを応援する人が増える)

- 先人の生き方への理解を通して広い視野を獲得し、郷土の特色を全国や世界に発信できる力が養われる

- 地域や社会への積極的な関与や、貢献を通じた自己有用感の向上

- 史資料の価値を認識し、保存の重要性の理解が深まる

生きがい・希望実感

- 自分や地域の未来に期待や楽しみ、ワクワク感

つながり実感(地域)

- 先人達の努力の上にある自分を意識
- 地域で学び、生きる前向きな気持ちになる(自己有用感)

つながり実感(富山県)

- 県(自然・文化・歴史)や先人達の努力に誇りと愛着を感じる
- 富山県の未来に自分も参画していく期待感

「とやまグリーンツーリズム」を通じて、県民が県内農山漁村地域における豊かな自然、景観、食、伝統文化など地域資源を活かした体験による「やすらぎ」・「学び」を得る機会が多く生まれている。また、地域間や地域内での人々のつながりが強まっている。

ありたい姿・実現したい未来

課題

○心のゆとりを農村に求める人材と活力低下に悩む地域をマッチングできれば多くの課題解決が期待できる。

課題①

関心のある若者に情報がタイムリーに届いていない

課題②

交流事業の担い手不足

背景・現状

○ウェルビーイング県民意識調査
・富山県で暮らしていて、「幸せ」を感じること (R4) →美しい自然、美味しい食など恵まれた環境に関する回答が多い傾向

・農山漁村地域で暮らしてみたい又は活動してみたいと思うか。(R5)
10代：21.8% 20代：17.4%
30代：14.4%

○中山間地域実態調査 (H30)
・暮らしにおいて困難が生じていること →「後継者の育成・確保(61.2%)」

○ウェルビーイング指標 (10～30代平均)
・自分らしさ実感 3.27
・思いやり実感 3.36
・つながり(家族) 3.45
・つながり(地域) 2.79

対象

- ・都市農山漁村交流事業に関心のある県民
- ・都市農山漁村交流事業を行っている県内の法人、団体、個人

特に

10歳代～30歳代の若者

実施事業 (インプット)

直接の結果 (アウトプット)

影響・変化 (アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング向上

情報伝達手段の強化

- ① **新** フォーカスとやまの農山漁村推進事業★(うちプラットフォーム運営) 300万円
 - ・農山漁村地域に係る情報発信の強化
 - ・若者をターゲットにした情報発信

地域活力の維持・担い手確保

- ① **新** フォーカスとやまの農山漁村推進事業★(うち都市農村交流事業広報支援) 290万円
 - ・都市農村交流事業を実施する地域に対する広報面での支援

② 中山間地域交流スタートアップ支援事業 600万円

- ・新たに都市農村交流による地域活性化を推進する地域運営体制づくりへの支援

③ 中山間地域保全パートナーシップ推進事業 300万円

- ・中山間地域の集落と企業等とのマッチングや、「とやま農業・農村サポーター」によるボランティア活動の推進

④【連携】中山間地域チャレンジ支援事業(地創) 1,675万円

- ・地域活性化に向けて、地域団体等が取り組む試行的活動への支援

交流の活性化

- ・プラットフォーム運営による県内都市農山漁村交流事業に係る情報へのアクセス性向上
- ・若者を惹きつける広報展開による農山漁村交流事業の参加者数増 (農林漁業体験者数：R8目標値74,200人)

地域の活性化

- ・都市農山漁村交流事業を継続する地域や、新たに事業を行う地域の増
- ・重点地域数の増 (R8目標値：56地域)
- ・農業・農村サポーター活動参加者数の増 (R8目標値：245人)
- ・中山間地域における地域運営組織数の増 (R6実績値：73組織)

自分らしさ

・若者も地域の人々も自分らしく、いきいきと生きる

思いやり

・地域で感謝されることにより、他者のために役立ちたいという思いが高まる

つながり(家族)

・交流事業を通じて家族との時間を過ごし、やすらぎを得る

つながり(地域)

・世代間交流が広がり、他者への関心や相互理解が深まる

・富山の農山漁村の良さを再認識し愛着や誇りが増す

2 “働きがい”と未来への希望を高める、働き盛り世代のウェルビーイング 関連指標等

30～59歳の働いている方※のウェルビーイング指標の状況

※「会社・団体等の役員」+「正規（雇用期間の定めなく雇われている）従業員・職員」+「パートアルバイト、契約・派遣社員、家庭内での賃仕事（内職）」+「自営業主：「自営業主（自営業を手伝う家族従事者含む）」

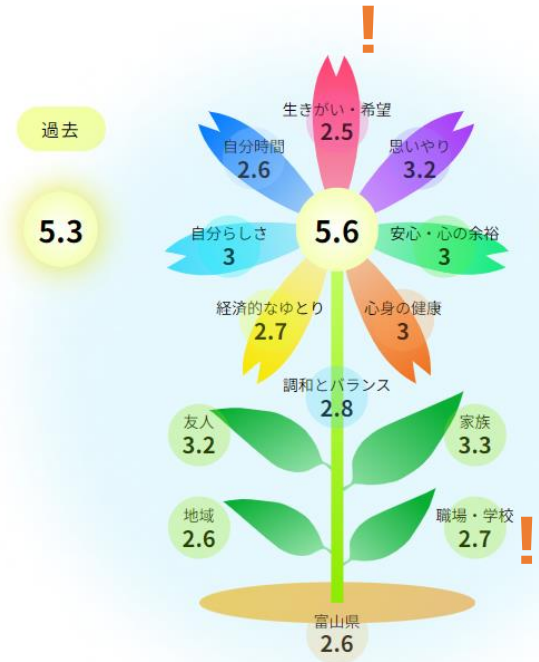
（参考）産業大分類別従業者数
 1 製造業：13.1万人（25.8%）
 2 卸・小売業：9.1万人（18.0%）
 （令和3年経済センサス-活動調査）

30～59歳の働く方	なないろ指標（抜粋） 4段階（1～4）				
	生きがい・希望	①やりがい・生きがい	②困難を乗り越えられる	③夢や目標にチャレンジ	④将来に期待、楽しみ
30～59歳	2.53	2.68	2.77	2.38	2.31
30～39歳	2.55	2.68	2.75	2.37	2.41
40～49歳	2.55	2.72	2.80	2.41	2.29
50～59歳	2.48	2.63	2.76	2.34	2.20
（参考）製造業	2.39	2.54	2.62	2.24	2.14
（参考）卸・小売業	2.54	2.72	2.83	2.36	2.30

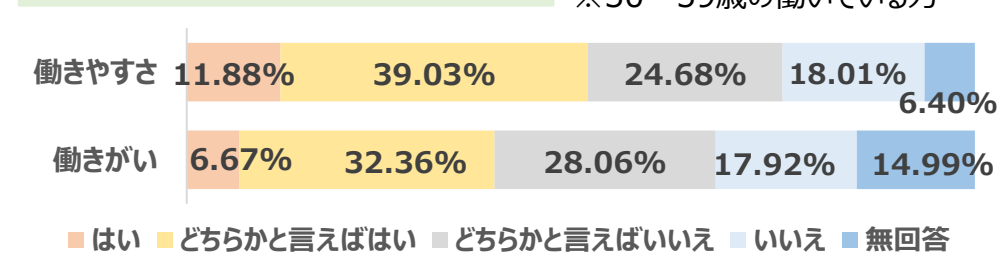
職場・学校等	つながり指標（抜粋） 4段階（1～4）				
	①関係良好	②楽しい、嬉しい	③愛着や誇り	④夢や目標実現可能	
	2.66	3.03	2.59	2.61	2.35
	2.66	3.09	2.64	2.55	2.33
	2.69	3.03	2.59	2.65	2.44
	2.61	2.96	2.54	2.62	2.29
	2.38	2.86	2.29	2.25	2.05
	2.66	3.05	2.59	2.67	2.31

総合指標（抜粋） 11段階（0～10）	
現在	未来
5.63	5.61
5.75	5.89
5.56	5.61
5.55	5.26
5.37	5.25
5.57	5.48

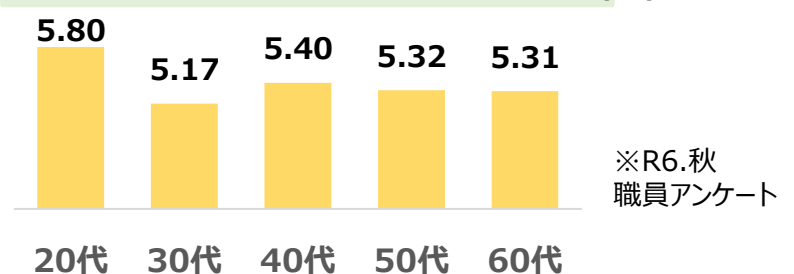
（参考）30～59歳（全体）のウェルビーイング指標の状況



働きやすさと働きがいを感じるか ※30～59歳の働いている方



県職員の状況（総合実感（現在））



指標の状況を踏まえた施策の方向性

- ◆ “働きがい”の実感やエンゲージメントが高まり、経営者・従業員のウェルビーイング向上と、企業・産業の成長や魅力向上との好循環を生み出す取組み
- ◆ 社会情勢の変化に適応し、更なる発展や社会貢献への希望を持つことができる取組み
- ◆ 質の高い行政サービス提供に繋がる、県職員のウェルビーイング・エンゲージメント向上

2 - ① “働きがい”を実感できるウェルビーイング経営の推進

経営者及び従業員が“働きがい”を実感し、自社へのエンゲージメントを高めるとともに、その活動に社会の共感が得られ、経済社会が活性化する好循環が生まれていること

ありたい姿・実現したい未来

課題

- 将来的な人口減少に伴い、人材確保がより困難。
- 生産年齢人口の主流を占めるミレニウム世代・Z世代への訴求が不可欠。
- 「知行合一」*を実践することの難しさ。
※知識と行動は一体であり、知識は行動を伴うこと

背景・現状

- **ウェルビーイング指標**
※働き盛り世代 → 30～50代で働いている方
全体：その他年齢層も含む
- **生きがい・希望**
働き盛り世代 2. 53
全体 2. 59
- **つながり（職場等）全体**
働き盛り世代 2. 66
全体 2. 73
- **うち、職場等への愛着・誇り**
働き盛り世代 2. 61
全体 2. 67
- **熱意ある社員の割合（Gallup「エンゲージメント・サーベイ2024」）**
日本6%、世界平均23%

対象

働き盛り世代（30～50代）の経営者及び従業員

まずは

従業員数が少ない企業の経営者及び従業員

実施事業（インプット）

直接の結果（アウトプット）

影響・変化（アウトカム～インパクト）

ウェルビーイング向上

【ステップ1】経営者の変革

- ウェルビーイング経営推進事業☆ 100万円
・経営層対象のセミナーを開催
- 【連携】^⑧「健康経営」普及支援事業（厚生） 290万円
・健康経営企業大賞の表彰や受賞企業の事例発表、個別相談会等を開催

【ステップ2】従業員の内発的動機

- 【連携】働き方改革・女性活躍サポート事業（知政）450万円
・企業における働き方改革や女性活躍に資する取組みを支援
- とやま人材リスクリング補助金 1,400万円（R⑥11月補正）
・県内中小企業のリスキングの取組みを支援

※このほか、社会貢献情報の県公式SNSへの掲載、県広報媒体による意識啓発、国や経済団体と連携した取組みを実施

【ステップ1】経営者の変革

- ウェルビーイング経営セミナー 参加者 100名程度/年
- 健康経営 とやま健康企業宣言事業所数の増加

【ステップ2】従業員の内発的動機

- 働き方改革・女性活躍サポート補助金 17件/年
- とやま人材リスクリング補助金 200件/年
- 社会貢献情報の県公式SNSへの掲載 20回/年

- ありたい姿を実現するためには、経営者自身が変革した上で、経営者が自らが「知行合一」を実践。

- その上で、経営者と縁があつて入社した従業員が一体となって理念を語ることで従業員の内発的動機を引き出し、チャレンジ精神を許容する経営、又は働きがいを最大限に引き出す経営が増加。

- また、企業が社会に貢献することにより、ミレニウム世代・Z世代の共感を高める経営が増加。

- この展開により、企業に対する共感が生まれ、収益拡大や人材確保などの好循環が生まれている経済社会を構築。

生きがい・希望

- ・ 自社の経営理念を再認識したうえで、従業員が自社のファンになること
- ・ 将来への期待感向上

つながり（職場）

- ・ 社会貢献活動を通じて地域課題の解決に取り組むマインドの高まり

2-② 県民が富山の自然や食などの幸せの基盤に誇りと愛着を持ち、自分の能力を活かして働くことができる富山県 【地方創生局】

ありたい姿・
実現したい未来

富山の魅力に愛着や誇りを持つ県民が、自分の能力を活かしていきいきと働くことができる未来

課題

・富山の自然・食・歴史・文化等の価値に気付く県民は多いが、**県内の観光資源を活かしたビジネスに繋がっていない。**
 ・富山県は「ものづくり県」であり、若者（特に若い女性）が専門性・柔軟性など自分の能力を活かして働ける場が少ない。
 ・10代では相対的に高い「生きがい・希望」、「つながり（富山県）」等のウェルビーイング指標が、20代から40代にかけて次第に低下する傾向。

背景・現状

・15～34歳社会移動（R5）
 男性△276人、女性△512人
 ・**ウェルビーイング意識調査、指標**
 「富山県ならではの自然や食、文化等に**愛着や誇り**がある。」へのポジティブな回答 80.6%
 ・「自分らしくいられる」、「自分が行っていることにやりがいを感じる」、「夢や目標に向かってチャレンジや努力をしている」、「将来に期待や楽しみ、ワクワクする気持ちがある」などの「**自分らしさ**」、「**生きがい・希望**」等のウェルビーイング指標が20代、30代と低下しており、10代と20代以降の幸せの実感に大きな差が存在。

対象

自然・歴史・文化・食等に恵まれた富山での上質な暮らしに愛着や誇りを持つ20代～40代の県民

特に

富山の魅力を自分の能力を活かしたビジネスに繋がっていきいたいと考えている20代～40代の県民（特に女性）

実施事業 (インプット)

1 専門性・柔軟性を活かしていきいきと働くことができる人的基盤の拡大

① とやま観光塾 2,410万円

2 富山での上質な暮らしの価値を理解する観光客の誘客

① **新**インバウンド・ハイエンド層誘客促進事業☆
1,440万円

② **新**欧米豪からの誘客促進、観光プロモーション☆
 ・情報発信とセールス 4,420万円
 ・観光PRイベント開催 4,300万円

③ **拡**国内ランドオペレーター向け誘客促進事業☆
581万円

直接の結果 (アウトプット)

1 専門性・柔軟性を活かしていきいきと働くことができる人的基盤の拡大

① : 観光地域づくりの中核人材・観光ガイド等の育成 20名

2 富山での上質な暮らしの価値を理解する観光客の誘客

① : 高付加価値旅行を扱う欧米豪やアジアの旅行会社との商談

② : ・欧州及び米国旅行会社・メディアへのセールス旅行会社等の招聘 計6回

・米仏でのPRイベント開催

③ : 首都圏ランドオペレーター等へのセールス 県内への招聘 計9回

影響・変化 (アウトカム～インパクト)

・専門性・柔軟性など自分の能力を活かしていきいきと働けることで、やりがいの充実、**自己肯定感**の向上

・人的基盤の拡大により周囲に良い影響を与えることでさらなる人材確保・育成に繋がる**好循環**へ

・知的好奇心旺盛で富山での上質な暮らしの価値を理解する観光客の誘客により、富山の**認知度・評価が向上**。富山への**愛着や誇り**に繋がる。

・富山での暮らしに対する**幸せの実感向上**

ウェルビーイング向上

生きがい・希望

・富山での暮らしへの**幸せ実感の向上**
 ・やりがいの充実
 ・夢・目標を実現可能な環境
 ・将来への期待・楽しみ**の向上**

自分らしさ

・専門性・柔軟性などの能力を活かして自分らしくいきいきと働くことによる**自己肯定感の向上**

つながり（富山県）

・富山県での生活への**愛着・誇り**
 ・周囲への**好影響**

県内事業者がGX（グリーントランスフォーメーション※）社会への進展に適確に対応し、脱炭素経営に移行することで、従業員が経済的なゆとりや未来へのワクワクを実感している。 ※温室効果ガス排出削減と産業競争力向上の両立に向けた経済社会システム全体の変革

ありたい姿・実現したい未来

課題

- 温室効果ガス排出量の把握・削減が必須
 - ・未対応なら取引停止リスク（サプライチェーンから排除など）
- 対応の必要性は認識するが、実践に結びつかない事業者も
 - いつか取り組まなきゃいけない。でも、何から始めたらいいのかわからない。
- GX推進が事業の発展・成長に

背景・現状

- 国内外：
 - ・脱炭素経営への移行加速
 - ・排出量取引制度（R8～）
 - ・化石燃料賦課金（R10～）
 - ⇒ 排出量に応じて負担増
- 大手企業：
 - ・排出量・目標の情報開示が義務化（R4.4）
 - ・自社排出分(スコア1・2)に加え、取引先排出分(スコア3)も対象に

R6ウェルビーイング県民意識調査

働き盛り世代（20～40代）
つながり（未来への期待・ワクワク）
⇒ 2.19～2.22
生きがい・希望実感
⇒ 2.67～2.90
経済的なゆとり実感
⇒ 2.88～3.00
安心・心の余裕
⇒ 2.71～2.82

対象

GX対応に不安感を持つ事業者、その従業員
(製造業、サービス業、農林水産業等の幅広い業種)

特に

GX社会で働き盛りを迎える
現在20～40代の者

実施事業
(インプット)

直接の結果
(アウトプット)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング向上

1 幅広い業種のGX推進を支援

富山型GX推進事業 300万円：県内企業等におけるGXの実現に向けて、県で作成した取組手引書の普及・活用を通じた取組みの実践を支援

2 持続可能な成長への包括的アプローチ（関連事業）

- GX（企業向け）
 - ＜温室効果ガスの排出削減と成長＞
 - 【多排出業種の中小企業を集中支援】脱炭素化モデル中小企業育成事業【連携】(商労) 6,120万円：県内中小企業の再エネ・省エネ設備導入を支援
 - 【再エネ活用の推進】森林J-クレジット【連携】(農水) 県営水力発電【連携】(企業) 小水力発電開発等の推進
- デコ活（県民向け）
 - ＜ライフスタイル転換による需要創出と成長＞
 - とやま環境未来チャレンジ事業【連携】(生環) 350万円：小学生に向けた環境教育(子育て世代の実践拡大)
 - カーボンニュートラル戦略推進事業 728万円：カーボンニュートラルとウェルビーイング向上を両立する脱炭素型ライフスタイルへの転換を補助制度と併せて周知

1 県内事業者が持続的に成長

県内事業者が取引先事業者や消費者から選ばれる存在に

2 GX対応への機運醸成

・県内中小企業、幅広い業種における関心の高まりと理解の向上、意識変革
⇒ さらなる実践者の増加に



ここから取り組めばいいのかわからない！ 我々が社も始めよう！

3 脱炭素経営への移行が加速

- ① 必要性を認識 (未対応のリスク等)
- ② 排出量の把握・見える化 (自社排出分、取引先排出分等)
- ③ 目標設定・削減実施 (省エネ機器導入、再エネ導入等)
- ④ 情報開示 (国際評価基準の認証等)
- ⑤ 競争力の向上 (環境配慮型製品の開発・販売等)

1 働き盛り世代がワクワクする未来に

・富山県の未来に、期待や楽しみ、ワクワクする者の増加
・自分が行っていることに、やりがい・生きがいを感じる者の増加

2 安定経営で従業員満足度の向上

従業員への収入・安心感の向上

3 本県の地域住民所得※1

[現状]	⇒ [目標]
442.5万円/人 (2020年度)	全国平均以上の伸び率 (2030年度)

4 取組実践事業者の割合

[現状]	⇒ [目標]
20.2% (2024年2月)※2	100% (2030年度)※3

5 国際評価基準認証等の事業者数

[現状] (2024.12)	⇒ [目標]
TCFD※4: 28社	100社 (2030年度)
SBT※5: 16社	

6 産業部門排出量の削減率(2013年度比)

[現状]	⇒ [目標]
▲30.3% (2021年度)	▲50% (2030年度)※3

働き方と経済の好循環

つながり（富山県）

・富山県の未来に、期待や楽しみ、ワクワクする気持ちがある

生きがい・希望

・自分が行っていることに、やりがい・生きがいを感じている
・様々な困難があっても、乗り越えていくことができると感じている

経済的なゆとり

・生活に必要な所得や資産がある
・自分のしたいことをする、または欲しい物を買える経済的なゆとりがある

安心・心の余裕

・現在置かれている立場・地位に満足を感じている
・楽しい、うれしい、面白いなど(ポジティブな)明るい気持ちになることが多い

※1 出典：環境省・DBJ価値総合研究所「地域経済循環分析・2020年試行版Ver7.0」最新値

※2 出典：事業者の脱炭素化に向けた取組に関するアンケート調査（令和5年度）

※3 出典：富山県カーボンニュートラル戦略（2023年3月策定）

※4 TCFD：金融安定理事会により設立された気候関連財務情報開示タスクフォース（企業数は富山県調べ）

※5 SBT：パリ協定に整合する削減目標設定を働きかけ、審査・認定を行う国際機関（企業数は富山県調べ）

2-④ サークュラーエコノミー（循環経済）の推進によるものづくり産業の新たな価値の創造【商工労働部】

富山県のものづくり産業が、国内外の成長が期待されるサーキュラーエコノミーの分野で新たな付加価値を創造し、その活動の見える化による社会の共感と、働く人の経済的なゆとりが生まれていること。

ありたい姿・実現したい未来

課題

- ・ものづくり産業の新たな付加価値の創造による持続的な成長と発展が必要
- ・「製造業」従事者のウェルビーイング指標の向上
→生きがいや、希望、社会とのつながり実感向上への取り組みが必要
- ・限られた資源の有効な活用とカーボンニュートラルの推進

背景・現状

- ・製造業従業者 1人あたりの付加価値額R4: 1,163万円
※県成長戦略KPI：製造業における付加価値率の全国上位を実現
- ・**ウェルビーイング指標（製造業）**
生きがい・希望実感（将来に期待や楽しみ） **2.21**
経済的なゆとり **2.66**
つながり（職場）（愛着や誇り） **2.33**
つながり（地域） **2.57**
つながり（富山県） **2.55**
- ・廃棄物の循環 廃プラスチック類の最終処分量 32.6%
（2025年目標30%以下）
- ・就職活動を終了した学生が就職先企業に決めた理由（全国）
1位 社会貢献度が高い 34.3%
2位 給与・待遇が良い 27.4%
3位 将来性がある 27.0%
（R3キャリアス調査）

対象

ものづくり産業で働く方々

特に

次世代を担う40代以下の若年層

実施事業
（インプット）

直接の結果
（アウトプット）

影響・変化
（アウトカム～インパクト）

ウェルビーイング向上

○サーキュラーエコノミー(CE)移行への環境整備と動静脈連携の推進

- ① ものづくり産業サーキュラーエコノミー推進事業☆ 1,600万円
- ② アルミ産業成長力強化戦略推進事業☆ 4,654万円
- ③ **拓**産学官オープンイノベーション推進事業☆ 9,205万円
- ④ **新**新技術創出普及事業☆ 960万円
- ⑤ **【連携】**プラスチック資源循環促進事業（生環） 80万円
- ⑥ **【連携】**SDGs連携推進事業（知政） 280万円
- ⑦ **【連携】****新**地域資源循環理解促進事業（生環） 50万円

○産学官連携による新たな価値の創出や一般県民の機運醸成

- ① 専任コーディネーターによる産学官企業間ネットワーク形成
クリエイティブ人材活用による異業種連携促進のカンファレンス開催
- ② 循環型アルミ産業網の構築
企業間連携によるDXプラットフォーム実装に向けた取り組み
- ③④ サークュラーエコノミーに資する新製品・新技術の研究開発、人材育成
- ⑤ プラ排出事業者とリサイクラー、製造業者のマッチング(3件程度)
- ⑥ ものづくり産業と各宣言企業との連携促進
- ⑦ 県民向けの資源循環に関する事例紹介(国、企業、学生)を通じたサーキュラーエコノミーへの理解促進

○循環経済への移行と経済成長の両立

- ・資源循環分野での産学官連携による新しいビジネスモデルの創出、CE市場拡大による経済成長
- ・廃プラスチック類の循環利用と、最終処分量の削減

○環境配慮に向けた行動の促進

- ・資源循環、脱炭素を意識した企業活動の促進

○社会・住民からの評価の高まり

- ・県内企業のCEへの取り組みが経営目標として定着することにより、環境・社会課題に関心が高い若者から、就職先として選ばれる魅力が向上

生きがい・希望

- ・社会に貢献し、働き甲斐のある仕事をしている実感
- ・成長産業で働く将来への希望の実感

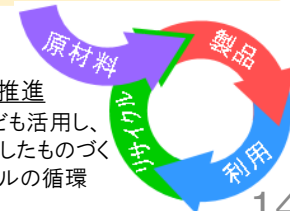
経済的なゆとり

- ・所得の増加によるゆとり実感

つながり（富山県/職場）

- ・地域とつながっていることを実感
- ・愛着や誇りがある
- ・自分の夢や目標を実現できる場である

ものづくり産業におけるサーキュラーエコノミー推進
再生可能エネルギーなども活用し、原材料の「入力」を抑制したものと消費、廃棄、リサイクルの循環



2-⑤ 県職員のエンゲージメント・ウェルビーイング向上による質の高い行政サービスの持続的な提供【経営管理部】

職員ひとり一人が自己効力感と成長を感じながらやりがいを持って業務に取り組み、質の高い行政サービスを提供できる。

県職員、県民や県内事業者

特に

やりがいを感じにくい若手・中堅職員、
県職員と接する機会の多い県民等

実施事業 (インプット)

直接の結果 (アウトプット)

影響・変化 (アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング向上

R⑤人材育成・確保基本方針、 職員行動指針の策定

1 職員の育成（キャリア開発支援、 研修体系の見直し）

① キャリア相談体制の拡充

140万円

〔キャリアコーディネーター及び
キャリアコンサルタント設置〕

2 仕事と家庭の両立支援 (男性育休のさらなる促進)

・県庁男性職員育休取得促進
事業 807万円

3 職員のモチベーション向上

② チャレンジコンテスト事業
400万円

1 職員の育成（キャリア開発支援、 研修体系の見直し）

・「与えられる人材育成」から、「自ら描くキャリア形成」へ
・セルフキャリアドックの導入
3年目、34歳、46歳、55歳のキャリアデザイン研修受講者に対する集中的キャリア相談の実施
・チャレンジ講座(全4回)の開催
・選択制研修のチャレンジ科目拡充

2 仕事と家庭の両立支援

・男性の育児休業取得率
(一般行政・公営企業部門)
R⑤48.1%→R⑦85%
・管理職の女性割合
R⑥20.2%→R⑦25%以上

3 職員のモチベーション向上

・チャレンジコンテスト
職員の事業提案(採択枠の拡充)
・モデルオフィスの運用(R6整備)
本庁の複数の室課が順次、モデルオフィスでの執務を体験

県職員のエンゲージメント・ウェルビーイングが向上する。

1 県職員にとって

・職員が仕事のやりがい、自己成長を実感し、モチベーションの向上やチャレンジする組織文化が醸成
・やりがいのある働きやすい職場の実現により、優秀な人材に選ばれる職場となり、持続可能な行政サービスの提供体制が構築される
・人手不足の解消につながり、職員の自分時間の充実、仕事と家庭の両立等ワークインライフが促進

2 県民の皆さんにとって

・県職員の成長とやりがいの向上は、多様な行政課題への対応力強化につながる
・現場主義、県民目線、スピード重視が徹底された、ワンチームの組織力により、質の高い行政サービスを提供していく

つながり（職場）

・自分の夢や目標を実現できる環境が整っている
・良好な人間関係も含め、ポジティブな明るい気持ちになる
・職場に愛着や誇りを持てる

自分時間の充実

・自分の自由な時間ができ、心に余裕が持てる

生きがい・希望

・将来に、期待や楽しみ、ワクワクする気持ちを感じている
・やりがい・生きがいを感じている
・夢や目標に向かって、チャレンジや努力している

ありたい姿・
実現したい未来

課題

・若手・中堅県職員のエンゲージメントとウェルビーイングが低い。
・ライフプランや価値観の多様化により、県職員の離職が増加。
・社会情勢の変化により、行政課題が複雑化・高度化。
・県職員ひとり一人が能力を発揮できるよう人材の育成が急務。
・人口減少により、優秀な人材の確保が困難。人手不足。

背景・現状

・職員アンケート(R6.秋実施)
勤続年数6～20年のエンゲージメントが低い。

勤続年数	6～10年	11～15年	16～20年	全体
エンゲージメント	2.22	2.18	2.35	2.48
ウェルビーイング	5.43	4.91	5.36	5.39

・ウェルビーイング指標

つながり（職場/目標実現）
県職員/20代2.58、30代2.31

自分時間の充実

県職員/20代3.19、30代2.64

生きがい・希望（将来期待）

県職員/20代2.59、30代2.33

2 - ⑥ 公金・会計事務のデジタル化による行政サービス向上と県庁の業務改革との好循環創出

フロントヤードとバックヤードのデジタル化により、行政サービスの向上と県庁の業務改革を併せて実現することで、職員は、きめ細やかな対応が必要な相談業務やより創意工夫が必要な行政課題への対応に注力できる。結果として、質の高いサービス提供が可能となる好循環が創出される。

ありたい姿・実現したい未来

課題

- ・事業者や金融機関等から、行政手続き・公金事務の効率化・電子化が求められている
- ・県庁全体で欠員が生じ、公金・会計事務について、会計年度任用職員等に頼る面もある。
- ・見直しは、影響範囲が広いことから、計画的に取り組む必要がある。
- ・一方で、デジタルデバйд対策を進めることは重要。

背景・現状

- ・電子納付対応
：222/865手続(R7.1)

ウェルビーイング指標

つながり (職場/目標実現)
 正規等/20代2.52、30代2.28
 県職員/20代2.58、30代2.31

自分時間の充実
 正規等/20代3.12、30代2.63
 県職員/20代3.19、30代2.64

生きがい・希望 (将来期待)
 正規等/20代2.59、30代2.37
 県職員/20代2.59、30代2.33

※正規等 正規職員・従業員+パート、アルバイト、契約・派遣社員
 ※R6 調査結果、県職員は・職員アンケート (R6.秋実施)

対象

○県民・事業者（納付者等） ○金融機関 ○県職員

特に

企業の経理担当者
 金融機関の窓口業務従事者
 若手県職員

実施事業 (インプット)

- 1 公金事務のデジタル化推進
- ① 公金のeLTAX活用 (税外の公金への拡大等) 1,430万円
 - ② 電子申請・電子納付の推進、利用率向上の取組み
 - ③ 収入証紙制度の廃止 (R7.9.30販売終了) に伴うキャッシュ決済端末導入事業 (県警と共同実施) 781万円
 ※R6~11債務負担行為 2,849万円
 - ④ 手数料収納窓口整備事業 2,870万円
- 2 会計事務のデジタル化推進
- ① 会計年度任用職員人事給与システムの導入事業 4,208万円
 ※R6~10債務負担行為 2億3,100万円 (R5.11補)

直接の結果 (アウトプット)

- 1 公金事務のデジタル化推進
- ① 公金のeLTAX活用 R8.9までに運用開始 対象件数：約3.1万件
 - ② 電子申請・電子納付が可能な手続きを順次拡大
 - ③ 収入証紙 (年間80万~90万件) を廃止し、デジタルデバйд対策として多様な納付方法が可能な手数料収納窓口を整備
 ・県内20か所にキャッシュ決済端末23台設置 R7.8 運用開始予定
 ・収納窓口業務を外部委託
- 2 会計事務のデジタル化推進
- ① 会計年度任用職員人事給与システム導入 知事部局・教委・県警・企業局・中央病院に導入 対象者数：約2,700人 (人事給与の一元管理 事務の一部集約化)

影響・変化 (アウトカム~インパクト)

- 県民や事業者、金融機関
 行政手続きや窓口業務が効率化され、負担が軽減されているほか、利便性向上やコスト削減、人手不足解消にも寄与している。
- 県職員
 事務が効率化され、生産性が向上しているほか、将来的な事務負担軽減への期待感が増し、**働きがい・自分時間の充実**等希望が持てる。

ウェルビーイング向上

つながり (職場)

- ・自分の夢や目標を実現できる環境が整っている
- ・良好な人間関係も含め、ポジティブな明るい気持ちになる
- ・職場に愛着や誇りを持てる

自分時間の充実

- ・自分の自由な時間ができ、心に余裕が持てる

生きがい・希望

- ・将来に、期待や楽しみ、ワクワクする気持ちを感じている
- ・やりがい・生きがいを感じている
- ・夢や目標に向かって、チャレンジや努力している

3 “共助”で支え・高め合うウェルビーイングの輪の広がり

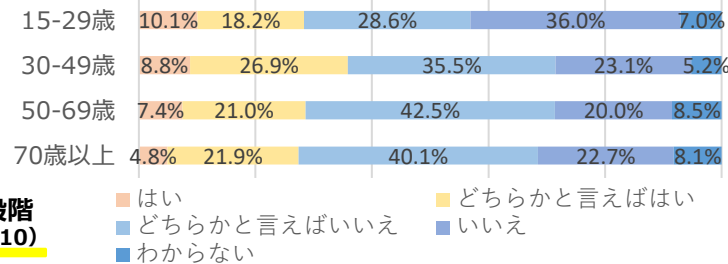
各年代のウェルビーイング指標の状況

なないろ指標 (抜粋) 4段階 (1~4)

	安心・心の余裕					生きがい・希望			思いやり		
	①住まい 快適・安全・安心	②心から 安らげる場 所	③立場・ 地位に満 足	④明る い気持 ち		①やりが い・生き がよい	②困難を 乗り越え られる		②喜ばせ たい楽し ませたい	③親切な 対応や手 助け	
10~20代	3.34	3.49	3.50	3.11	3.24	3.01	3.11	3.06	3.44	3.35	3.42
30~40代	3.03	3.19	3.29	2.75	2.89	2.55	2.70	2.76	3.24	3.13	3.23
50~60代	2.87	2.91	3.06	2.75	2.76	2.46	2.61	2.73	3.08	2.95	3.06
70代以上	2.97	3.01	3.11	2.94	2.82	2.55	2.78	2.81	3.03	2.91	2.98

地域や住まいの安全・安心について (R6ウェルビーイング県民意識調査)

住まいの周辺で、犯罪や事故の発生に対する不安がある。



つながり指標 (抜粋) 4段階 (1~4)

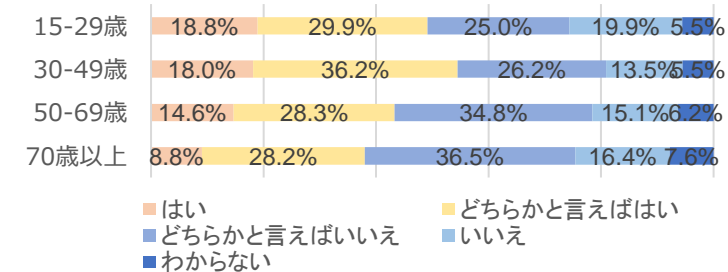
	地域				
	①関係良 好	②助けて くれる	③楽しい、 嬉しい場 所・機会	④意見、 価値観理 解・尊重	
10~20代	2.89	3.12	2.93	2.61	2.91
30~40代	2.60	2.93	2.62	2.31	2.51
50~60代	2.60	2.96	2.66	2.22	2.52
70代以上	2.83	3.15	2.81	2.57	2.75

	富山県				
	①ア防災・ 防犯不安 なし	①イ医療・ 福祉不安 なし	⑤未来に 期待、楽 しみ		
10~20代	2.91	3.05	3.09	2.47	
30~40代	2.58	2.75	2.67	2.20	
50~60代	2.51	2.70	2.66	2.07	
70代以上	2.71	2.86	2.92	2.29	

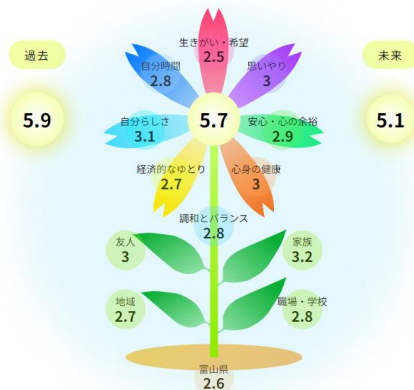
総合指標 (抜粋) 11段階 (0~10)

	現在	未来
	6.24	6.58
	5.61	5.74
	5.65	5.25
	5.70	4.87

住まいの周辺で、自然災害が発生する不安がある。



(参考) 60歳以上 (全体) のウェルビーイング指標の状況



指標の状況を踏まえた施策の方向性

- ◆ 他者への**思いやり**が連鎖し、**安心・安全な実感**を皆で相互に**支え・高め合う**意識・行動の後押し
- ◆ 県民が抱える様々な困りごと (社会課題) の解決に向け、県民が、自らの**能力・技術、意欲、経験、立場**を活かして**助け合うこと**ができる**機会・環境**づくり
- ◆ **共助**の取組み自体に、**生きがい**や**希望**を感じられる取組み

3 - ① 地域防災力向上による安全・安心実感の充実

県民が多様な形で地域防災活動に参加することにより、安全・安心実感が充実している。

ありたい姿・
実現したい未来

課題

- ・「公助」の充実に努めるとともに、地域住民の自発的な避難誘導など「共助」の取組みも重要。
- ・各自の実情に応じて選択・参加できるよう、様々な防災活動の周知及び働きかけが必要。
- ・地域防災の要である消防団員は減少している。

背景・現状

〇ウェルビーイング指標

・つながり（富山県）暮らしに不安はない（防災・防犯）

30代：2.75 40代：2.75
50代：2.74

〇ウェルビーイング県民意識調査

・防災等に不安を感じていても、（仕事や家庭の都合などから）防災活動等への参加が難しいと感じている

→ 30代～50代で多い傾向

〇県民意識調査(消防団)

団員の勧誘あっても、年齢や体力、仕事や家庭の都合を理由に入団しないと回答した方 77.9% (R3)

対象

消防団や自主防災組織、災害ボランティア団体で活動する人

特に

防災に不安を感じるが、防災活動に関与出来ていない県民

実施事業
(インプット)

I 消防団充実強化推進事業 650万円
・消防操法大会のCATV放映等

II 防災士養成事業 1,750万円
・防災士養成研修
・防災士スキルアップ研修

III 地域防災力向上支援事業 3,000万円
・自主防災組織資機材整備事業
・自主防災組織研修・訓練等促進事業
・地区防災計画策定促進事業

IV【連携】^新災害救援ボランティア連携体制整備支援事業（生環） 580万円

直接の結果
(アウトプット)

I 消防団員数の確保 R6団員数(R1との比較) 8,370人(▲962人)

II 防災士の養成数 目標:4,720人(R8) 各自主防災組織に2名程度配置できるよう養成

III 市町村地域防災計画に反映された地区防災計画数 目標:62地区(R11) (R5.4 2地区) 防災訓練の実施 目標:全組織実施

IV ボランティア数の増加 目標:5,800人(R9) (人口10万人当たり)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

・消防団員や防災士の熱心な活動による消防団・自主防災組織の活動の活性化

・地区防災計画に基づく避難訓練の実施による地域防災力の向上

・共助の取組みの推進による安全・安心実感の充実

・行政、社会福祉協議会、ボランティア総合支援センター、災害中間支援組織の円滑な連携による被災者支援体制の確立

ウェルビーイング向上

安心・心の余裕

- ・住まいが安全・安心と実感
- ・心から安らげる場所がある

思いやり

- ・他の人を喜ばせたい、楽しませたいと思行動
- ・親切な対応や手助けを心がける

つながり（地域）

- ・地域の方に助けられる安心感
- ・地域で前向きな気持ちになる

つながり（富山県）

- ・防災について不安の解消

3-② 支え・支えられる共助社会の実現

あらゆる世代において、支えられる人（福祉サービスの受け手）が、様々な人とのつながりの中で、自らも支える立場（福祉サービス提供の担い手）となることで、自分らしく、生きがいをもっていきいきと暮らす。そのための様々な選択肢、居場所等がある。

ありたい姿・実現したい未来

課題

- ・本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎えている。特に、高齢者人口がピーク(2040年)を迎える一方、生産年齢人口は減少していく中で、福祉人材の確保は喫緊の課題。
- ・個人の特性・得意分野を活かした「つながり・支え合い」を創出することが必要

背景・現状

- ・福祉人材の確保は、プロフェッショナルな資格をもつ人だけでなく誰もが人材になりえる。
- ・支援を必要とする状況にある人たちが支援の機能を果たすことでお互いがエンパワーメントしていく活動が広がっている。

〇ウェルビーイング指標

(例) 10~20代 70代以上

心身の健康	3.43	2.94
生きがい・希望	3.21	2.55
安心・心の余裕	3.50	2.97
自分らしさ	3.47	3.18
つながり(地域)	3.08	2.83

- ・子ども食堂の数 (R3)26箇所→(R6.12末) 75箇所
- ・がんピアサポーター数 (R3) 113人→(R6) 132人

対象

高齢者、障害者、子ども・若者

特に

課題を抱える当事者であり、同時に支援する役割も担う者

実施事業 (インプット)

- 多胎ファミリーピアサポート事業 50万円
- ・育児負担を伴う多胎児を持つ家庭と地域をつなぐ交流会等の実施
- 障害、がん患者等のピアサポート事業☆ 障害280万円、がん337万円
- 子ども食堂応援事業☆ 240万円
- ・立上げ経費や特色ある取組みへの支援
- 認知症地域支え合い推進事業 149万円
- ・認知症サポーター養成講座の開催、認知症の方と支援者をつなぐチームオレンジの設置
- ⑧ 地域からの介護人材参入促進事業☆ 900万円
- ・養成校の学生や卒業生が、地域住民へ介護の魅力を発信
- ⑧ 元気高齢者による介護助手マッチング支援事業☆ 690万円
- ・介護助手普及推進員が介護助手の普及・導入を促進、地域における介護事業所への制度導入支援
- ふれあいコミュニティ・ケアネット21事業☆ 6,180万円

直接の結果 (アウトプット)

- 多胎児世帯向け交流会開催：県内1箇所(富山市)
- 障害者ピアサポート研修開催：3コース(基礎・専門・フォローアップ)、がんピアサポーター研修開催：2コース(養成・フォローアップ)
- 子ども食堂の立上げ経費支援、立上げ初年度の運営費支援・特色ある取組みへの支援：各15団体
- 認知症サポーター養成：年4,100人、チームオレンジ新規設置数：年2チーム
- 地域住民への介護の理解促進のための入門的研修：県内6会場100人程度
- 介護助手のマッチング件数：30件
- ケアネット活動の取組み地区数：267地区

影響・変化 (アウトカム～インパクト)

- ・人々が支え合い、つながりを持ちながら安心して生活を送ることができる。
- ・自分が誰かを助けているという生きがいをもつことで、自分らしくいきいきと暮らすことができる。
- ・福祉人材の確保と掘り起こし(まちにいる人みんなが人材)
- ・地域や社会に積極的に関与し、貢献できる自己有用感の向上
- ・自分自身を肯定的に捉え、積極的にチャレンジする意欲の向上
- ・前向きなチャレンジを、周りが尊重し、実現を応援できる雰囲気醸成

ウェルビーイング向上

心身の健康

・心の状態は健康だと感じている

生きがい・希望

・自分が誰かを助けているという生きがいを感じている

安心・心の余裕

・自分を受け入れてくれて心から安らげる場所がある

自分らしさ

・自分らしくいきいきと暮らすことができる

つながり(地域)

・地域での自己有用感

特に犯罪に巻き込まれやすい高齢者が、サイバー空間を含めて防犯意識を持ち、犯罪に巻き込まれる不安なく、安全・安心に生活でき、高齢者の周りの人々が、防犯に主体的に取り組むことで、家庭や地域、職場などにおいて人々とのつながりを感じながら、高齢者を見守ることができる共生社会の実現を目指す。

ありたい姿・実現したい未来

課題

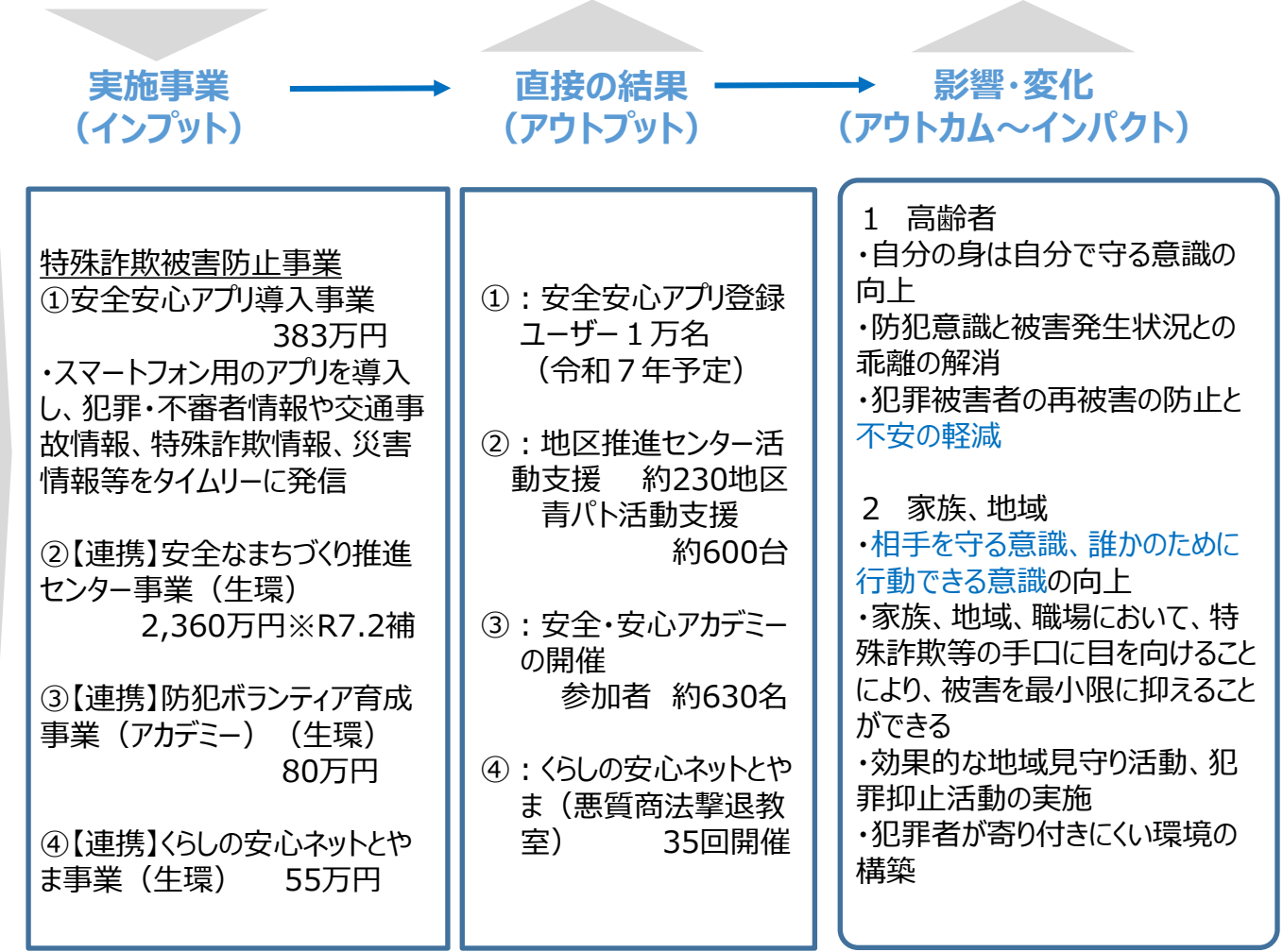
- ・地域や住まいの安全・安心に不安を感じているが、地域での防犯活動へ積極的に参加する意識が低い一方、地域での防犯カメラ設置等、高齢者の見守りに先端技術を活用する必要がある状況
- ・富山県が犯罪のループホール（抜け穴）にならないよう対策が必要

背景・現状

ウェルビーイング指標

	10～50代	60代以上
・総合実感（未来）	5.97	5.06
・安心・心の余裕	3.11	2.94
・思いやり	3.29	3.04
・つながり（家族）	3.36	3.18
・つながり（地域）	2.71	2.73
・つながり（富山県）※うち防災・防犯	2.86	2.76

・令和6年12月末現在、特殊詐欺等による被害額は約22億1000万円。
【内閣府の治安に関する世論調査】
・偽の情報を含め様々な情報がインターネット上で氾濫し、それが容易に手に入るようになった64.4%
【県政世論調査】
どのような犯罪に不安を感じるか
・空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪57.3%、架空料金請求をはじめとした特殊詐欺53.2%、インターネットを利用した犯罪46.1%



ウェルビーイング向上

総合実感（未来）

- ・未来への期待・希望

安心・心の余裕

- ・生活環境が安全・安心できる

思いやり

- ・他者への親切、手助けの広がり

つながり（家族）

- ・家族の安全・安心をサポート

つながり（地域）

- ・困った時に地域の人々は助けてくれるという繋がりの実感

つながり（富山県）

- ・防犯面において、富山県での暮らしに不安がない

3-④ デジタル変革で紡ぐワクワクする富山県づくり

若者から高齢者まで、誰もがデジタル変革による成果を享受し、ゆとりと豊かさを実感できる富山県

ありたい姿・実現したい未来

課題

- ・人口減少・少子高齢化の進展により、社会を支える担い手不足に伴うサービスや産業競争力の低下、地域社会機能の衰退等が懸念され、富山県の未来に対するワクワク感が減少
- ・その克服のためには、様々な分野でデジタル変革が不可欠
- ・複雑化する地域課題に対し、社会全体で一層連携して取り組むことが必要

背景・現状

・**ウェルビーイング指標**
総合実感(0~10)では、年代が上がるに連れて現在よりも未来にかけての評価が下がる傾向

30代(現在)	5.70	(未来)	5.90
40代(現在)	5.51	(未来)	5.56
50代(現在)	5.51	(未来)	5.27
60代(現在)	5.78	(未来)	5.24

・特に30代以上は、富山県の未来に期待や楽しみ、ワクワクする気持ちが低い(1~4)

30代	2.21	40代	2.19
50代	2.07	60代	2.07

・**生活の調和とバランス実感**

30代	2.74	40代	2.75
50代	2.76	60代	2.79

・**やりがい・生きがい**を感じている

10代	3.30	20代	2.92
-----	------	-----	------

対象

・30代以上
・10代、20代の若者

特に

・問題意識があり現状を変えたいと思っている組織や地域で中核を担う人
・デジタルの知識や技術で地域課題解決に貢献したいと思っている若者等

実施事業 (インプット)

- デジポックとやま実証実験プロジェクト事業 3,400万円
- ・県民、事業者、自治体等が抱える課題を深掘り、見える化
- ・事業者や教育機関などが持つ課題を解決できるデジタル技術とのマッチング
- ・課題を解決し、事例の見える化・横展開
- 県立大学DX教育研究センター運営費(経管) 5,778万円
- ・ワーキング活動やシーズの発信力を強化し、産学官連携・マッチング
- Ⓜ 中小企業デジタル変革推進事業(商労) 3,100万円
- とやまスタートアップ「T-Startup」創出事業(商労) 5,700万円

直接の結果 (アウトプット)

- ・本県のDX推進が促されるような実証実験数：6件
- ・県立大学DX教育研究センターにおけるワーキング活動：150回
- ・自社課題発掘・解決講座：20人
- ・デジタル化相談窓口における相談数：68件
- ・T-Startupを選定し集中支援：5~6社
- ・スタートアップエコシステムサミット開催：200人参加

影響・変化 (アウトカム~インパクト)

【課題を抱える人】

- ・業務効率化・生産性向上により、柔軟で多様な働き方が実現
- ・課題解決の取組みを通じて、地域や世代間の交流が促進

【課題を解決する人】

- ・地域社会に積極的に関与し、貢献できる自己有用感が向上

【両者が合わさることで生じる効果】

- ・一定の人口減少があったとしても、デジタル技術を活用した課題解決により、地域のつながりが保たれ、サービスが維持・向上
- ・富山県にデジタル関連企業・人材・投資が集積

【その他の効果等】

- ・県内スタートアップ人材の発掘、機運醸成

ウェルビーイング向上

つながり (富山県)

- ・富山県での暮らしに不安がない
- ・富山県の未来に、期待や楽しみ、ワクワクする気持ちがある

生活の調和とバランス

- ・社会活動や余暇活動など、様々な面のバランスや調和がとれている

生きがい・希望

- ・自分が行っていることに、やりがい・生きがいを感じている
- ・将来に、期待や楽しみ、ワクワクする気持ちがある

4 ウェルビーイングを守り・支える“幸せの基盤”の保全と発展

関連指標等

安全・安心、未来への希望等に関するウェルビーイング指標の状況

	なないろ指標 (抜粋) 4段階 (1~4)			つながり指標 (抜粋) 4段階 (1~4)				総合指標 (抜粋) 11段階 (0~10)				
	安心・心の余裕	①住まい 快適・安全・安心	②心から安らげる場所	生きがい・希望	④将来に期待、楽しみ	家族	富山県	①ウ移動 (交通) 不安なし	⑤未来に期待、楽しみ	⑥愛着や誇り	現在	未来
10代	3.50	3.63	3.61	3.21	3.13	3.59	3.09	2.58	2.68	3.33	6.64	6.95
20代	3.18	3.35	3.40	2.80	2.61	3.42	2.72	2.34	2.26	3.18	5.85	6.20
30代	3.09	3.27	3.34	2.56	2.41	3.37	2.60	2.24	2.21	3.14	5.70	5.90
40代	2.97	3.10	3.24	2.54	2.29	3.29	2.57	2.24	2.19	3.16	5.51	5.56
50代	2.84	2.90	3.05	2.47	2.19	3.13	2.51	2.25	2.07	3.04	5.51	5.27
60代	2.90	2.92	3.07	2.45	2.17	3.15	2.50	2.30	2.07	3.04	5.78	5.24
70代以上	2.97	3.01	3.11	2.55	2.17	3.20	2.71	2.54	2.29	3.10	5.70	4.87

富山県で暮らしていて、「幸せ」を感じること

(R4県民意識調査、自由記入回答を分類 ※自由記入回答者は1,930名)

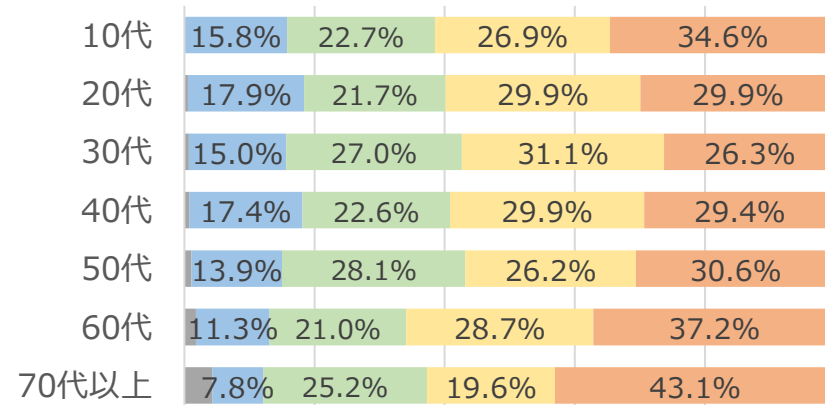
	カテゴリ	主なキーワード	回答数	割合
1	自然	自然、海、山 (立山)、空気、自然環境	674	34.9%
2	災害・治安	災害 (少ない)、犯罪 (少ない)、安全	533	27.6%
3	食べ物	食べ物、水、魚、米	342	17.7%
4	住環境・生活環境	住まい (家)、生活、地域、医療福祉、交通、教育	117	6.1%
5	家族との関係	家族	96	5.0%

「富山県で暮らすこと」家族や親しい友人にどの程度おすすめしたいと思いますか。

(R6ウェルビーイング県民意識調査)

※10「非常にそう思う」～0「全く思わない」の11段階

■ 無回答 ■ 0~4 ■ 5 ■ 6~7 ■ 8~10



指標の状況を踏まえた施策の方向性

- ◆ 日常生活に大きく影響する**食**や**住まい**の視点からのウェルビーイング向上
- ◆ **安全・安心**な**生活、事業活動**等を支える**基盤**の**維持・向上**
- ◆ **未来の世代**へ、**安全・安心、希望**を繋いでいく**取組み**

4-① ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスの実現

全市町村に鉄道が通る本県の強みを活かし、鉄軌道や駅を中心にあらゆるサービスが一つにつながるネットワークが形成され、ウェルビーイングを向上させる持続可能で最適な地域交通サービスを実現している。

ありたい姿・実現したい未来

課題

- 交通事業者の経営環境は厳しさを増しており、事業者がサービスの利便性・快適性の向上に取り組むには困難な状況
- 地域交通サービスは「公共サービス」であり、自治体・県民の役割を事業者への側面支援から、自らの地域に対する「投資」「参画」へと舵を切ることが必要

背景・現状

- 県民一人当たりの地域交通の利用回数
H27 : 42.4回/年 ⇒ R4 : 39.8回/年
- 地域交通の利用で便利で使いやすい、安全快適に移動できたと感じた方の割合 R5 : 38.9%
- 地域交通の利用でお得に出かける、健康や環境にいいことができたと感じた方の割合 R5 : 23.0%

ウェルビーイング指標(R6)

	学生 (10~20代)	70代以上
安心・心の余裕	3.51	2.97
生きがい・希望	3.23	2.55
自分らしさ	3.48	3.18
つながり(富山県)	3.08	2.71
うち移動不安なし	2.56	2.54

対象

○県民全体
 ・通勤・通学・通院・買い物等、地域交通サービスを利用する方
 ・店舗・企業、学校、観光施設など、沿線の施設の関係者
 ・地域交通サービスの従事者等

特に

運転免許を持たない方
(学生、高齢者 等)

実施事業 (インプット)

I 地域の活力・魅力向上のための「投資」

- ①交通まちづくり投資促進事業☆ 1,000万円
- ②地域共創型移動サービス推進事業☆ 2,300万円
- ③交通デジタル投資促進事業 ※一部生環と連携 500万円

II 地域の活力・魅力向上のための「参画」

- ①交通まちづくり参画促進事業☆ 1,000万円
- ②(拡)「電車・バスで行こう！」推進事業☆ 650万円
- ③富山県MaaS利用拡大事業☆ 1,000万円

直接の結果 (アウトプット)

I 地域の活力・魅力向上のための「投資」

- ①、②県民一人当たりの地域交通の利用回数の増加
R4 39.8回/年 ⇒ R5 42.0回/年 ⇒ R10 50.0回/年
- ③地域交通の利用で便利で使いやすい、安全快適に移動できたと感じた方の割合の増加
R5 38.9% ⇒ R6 41.8% ⇒ R10 48.6%

II 地域の活力・魅力向上のための「参画」

- ①、②地域交通の利用でお得に出かけることができた、健康や環境などにいいできたと感じた方の割合の増加
R5 23.0% ⇒ R6 25.4% ⇒ R10 28.8%
- ③MaaSアプリ (my route) DL数の増加
R5 25,278DL ⇒ R6 31,096DL ⇒ R10 50,000DL

影響・変化 (アウトカム～インパクト)

自治体・県民の「投資」「参画」が進むことで

- 地域交通を利用した通勤・通学等の移動が、これまで以上に便利で快適だと感じる
- 免許返納後の生活等について不安を抱かず、社会と関わりをもち生き生きと暮らせる
- 日々の生活の中で、お得感、満足感、新しい発見を得られる
- 働きやすさ、やりがいを感じながら活躍できる、サービスを担う多様な人材の増加

ウェルビーイング向上

安心・心の余裕

・使いやすく便利な公共交通サービスにより、安全・快適に移動でき、社会と関わりをもてる

生きがい・希望

・公共交通を中心としたまちづくりにより、生き生きと暮らし、日々の生活の中で新しい発見が得られる

自分らしさ

・新たなモビリティサービスの創出により、自分の意思で自由に移動できる

つながり (富山県)

・地域住民や地元企業・店舗等が地域に貢献しているとやりがいを実感できる
 ・移動への不安感が小さくなる

4-② ウェルビーイングを高め、支える住まいの確保

- 空き家の解体or再利用の峻別が進展し、まちなかを中心に空き家問題が解消されている
- 高性能（高断熱・耐震）リノベ住宅が数多く市場流通し、住宅需要者の選択肢が増加している
- 人口と新築需要が減る中でも、高度なりノベ技術を武器に工務店の生業が維持されている

ありたい姿・実現したい未来

課題

- ヒートショックが多い。
- 光熱水費等のランニングコストの上昇。
- 耐震化率が全国より低い。
- 世代進行により空き家増加が加速化する一方で、市場流通や解体or再利用の峻別が進んでいない。

背景・現状

- 面積・部屋数全国1位
- R4入浴中事故死：155人（R5交通事故死：31人）
- H30県耐震化率：80%（H30全国耐震化率：87%）
- R5空家率：14.7%（H30空家率：13.3%）
- ・実質賃金低下・金利上昇により若年世代の住宅取得ハードルが上がっている（新規着工戸数減）
- ・資材費・人件費の増高（新築物件価格高騰）
- ・建設・建築業倒産数が増加傾向

- ウェルビーイング指標 (R6)**
- ※20~60代/既婚/一戸建て所有
- 心身の健康実感 3.05
 - 経済的なゆとり実感 2.76
 - 安心・心の余裕実感 3.04
 - つながり実感(地域) 2.67

対象

戸建て住宅需要者（20代～60代）
新築需要減対応を要する県内工務店、空き家問題に悩む方々

特に

まちなかでの持ち家取得を希望する方（若年世帯）

実施事業 (インプット)

直接の結果 (アウトプット)

影響・変化 (アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング向上

- 【空き家】
- I(新) 富山型高性能住宅推進事業 5,300万円（一部）
 - II 安全・安心とやまの住まい耐震化促進事業 2億770万円（一部）

※富山県独自の基準を満たす高性能住宅にする改修の普及拡大を目的とした補助

- 【連携】再生可能エネルギー導入促進事業（生環） 5,972万円

- 【その他】
- III 省エネ技術施工講習会

- 【新築・居住中住宅改修分】
- IV(新) 富山型高性能住宅推進事業 5,300万円（一部）

- 【空き家】
- I、II補助により、高性能な空き家リノベ物件を市場に供給（5戸）

- 《物件スペック(補助条件)》
- ・検討委員会で取りまとめられた性能基準に合致
 - 断熱：G 2
 - 耐震：1.25倍（耐震等級2相当）
 - （補助額200万円/棟）

- 【参考】
- 再エネ導入促進補助金
 - 太陽光発電・蓄電池等 164件

- III 技術向上・蓄積(60社)

- 【将来目標】
- 県内既存住宅の年間ZEH導入件数(R4:2件、R5:0件)を全国総件数(R5:145件)並みにする。

- ビジネスを意識した建築業者の目利きにより、空き家の峻別が進み、結果的に空き家問題が解消されている

- 高性能で廉価な、「まちなかりノベーション住居物件」が数多く供給され、住宅需要者の選択肢が広がっている

- 空き家の高性能リノベ再販を通じた技術取得・蓄積が県内建築業のコア・コンピタンスとなって人口減少に伴う新規住宅着工数減にも関わらず県内工務店の生業が維持されており、居住者は住居の改築・修繕や新築に際して不安がない

安心・心の余裕

- ・災害時の危険リスク減（耐震性能上昇）
- ・防犯・防災（空き家減少）

心身の健康

- ・年中、快適な暮らし（高気密、高断熱）

経済的なゆとり

- ・光熱水費等のランニングコストの減（高気密・高断熱）
- ・エネルギーコストの減（同等新築費）

つながり（地域）

- ・様々な人とのつながりが生まれる「まちなか居住」の促進による市街地空洞化の抑制

安全・安心で利便性の高い社会資本が整備され、生活の豊かさを感じ続けることができる。

ありたい姿・
実現したい未来

課題

- ・全国で自然災害が頻発しており、**災害による人命・財産の被害を防止・最小化**する必要がある。
- ・人口減少下において、**優先度を考慮したインフラ整備・修繕等**が必要。
- ・共生社会を支える**未来につながる社会資本を整備**する必要がある。
- ・**建設業が地域の「守り手」として誇りに満ちた魅力ある産業**となる必要がある。

背景・現状

- 激甚化・頻発化する自然災害**
 - ・令和3年1月大雪
 - ・令和5年6、7月豪雨
 - ・令和6年能登半島地震
- 社会資本の整備状況**
 - ・道路改良率：82.6% (R5)
 - ・河川整備率：57.2% (R5)
- 建設業就業者**：▲38%(H12→R2)
- ウェルビーイング指標**
 - ・**安心心の余裕**
住まいの快適・安全・安心感
住まいの安心：3. 17
 - ・**つながり（富山県）**
富山県での暮らしの安心感
防災：2. 83、移動(交通)：2. 35
富山県での暮らしをすすめたい気持ち：6. 32
 - ・**富山県への愛着や誇り**
愛着・誇りがある：3. 14

対象

各種社会資本を基盤として日常生活や事業を営む県民等、地域の「守り手」である県内の建設業従事者

実施事業
(インプット)

- I 県民と県土を「守る」**
 - ①河川・海岸事業 58.6億円
 - ②砂防事業 38.3億円
 - ③道路法面对策 19.1億円
- II 人口減少を見据え未来のインフラを「創る」**
 - ①インフラの老朽化対策 177.6億円
 - ②道路ネットワークの整備 39.4億円
 - ③港湾の整備 21.7億円
- III 魅力ある日々の暮らしを「支える」**
 - ①人にやさしいみちづくり 148.3億円
 - ②都市基盤の整備 55.5億円
- IV 建設業の担い手確保**
 - ①建設企業等への補助☆ など 1,660万円
 - ②建設業と若者との交流☆ 350万円

直接の結果
(アウトプット)

- I 県民と県土を「守る」**
 - ①河川堤防、離岸堤の整備 など
 - ②砂防堰堤、待受擁壁の整備 など
 - ③法面保護工、落石防護工の整備など
- II 人口減少を見据え未来のインフラを「創る」**
 - ①橋梁、トンネル、ダム、下水道の点検・修繕・更新 など
 - ②道路ネットワークの骨格を形成する幹線道路の整備 など
 - ③国際拠点港湾の機能強化 など
- III 魅力ある日々の暮らしを「支える」**
 - ①通学路の歩道や消雪施設の整備、道路除雪の実施 など
 - ②都市公園の整備・更新 など
- IV 建設業の担い手確保**
 - ①建設業バックオフィス業務DX化推進支援、建設業担い手確保支援 など
 - ②建設業の仕事紹介や建設企業の若手社員と若者との交流会の開催

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

- I 耐震性向上や水害リスクの低減等により、安全・安心な県民生活の向上**
- II 計画的な維持管理・更新により、安定した生活環境の維持。**移動時間の短縮等により、**経済活動における生産性の向上、ビジネス機会の拡大**
- III 暮らしの安全性の向上、魅力が感じられる共生社会の創出**
- IV 地域の「守り手」である建設業の経営基盤の安定、担い手の確保**

ウェルビーイング向上

安心・心の余裕

- ・住まいの快適・安全・安心感

つながり（富山県）

- ・富山県での暮らしの安心感【防災】【移動(交通)】

- ・富山県での暮らしをすすめたい気持ち

- ・富山県への愛着や誇り

4 - ④ 県営電気・水道の安定供給とSDGsへの貢献

ありたい姿・
実現したい未来
課題

ウェルビーイングを支える県営の電気と水道・工水が将来にわたり安定して供給されることにより、**クリーンエネルギーの拡大や産業基盤の整備が進み、県民や事業者が安心して生活や事業活動を続けている。**

- ・電気・水道は生活に不可欠なライフラインであり、**供給が止まると大きな支障（安心感が低下）**
- ・施設が老朽化しており（代替施設なし）、**計画的な整備**が必要
- ・安定供給のためには、**ICT等の活用**による業務の効率化、**技術系人材の確保**が必要
- ・安定供給を通じて、**SDGs 目標達成への貢献**が求められる

背景・現状

- ウェルビーイング指標、県民意識調査
- ・安心・心の余裕実感のうち
住まいの快適・安心 3.17
 - ・富山県とのつながりのうち
愛着・誇り 3.14
 - 未来への期待・ワクワク感 2.26
 - 供給電力量 288,261MWh/年
(県内シェア約4%)
 - 故障による発電停止時間 45時間
 - 水道実給水量 37,732千m³/年
(県内シェア約30%)
 - 工水実給水量 66,777千m³/年
(供給先97事業所)
 - 水道・工水の安定供給達成率
(事前調整を行った断水除く) 各100%
 - ※以上のデータはR5年度実績
 - 電気職上級試験申込倍率
R4)3.0→R5)2.2→R6)1.8倍

対象

- 電気：地元電力会社と契約している県民、事業者（企業局は地元電力会社に売電）
- 水道：県西部4市の水道を利用している市民、事業者（企業局は県西部4市に供給）
- 工水：県営工業用水道を利用している事業者

実施事業
(インプット)

直接の結果
(アウトプット)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング維持/向上

I 電気の安定供給

- ①発電所リプレース 67億8,900万円
- ②発電所オーバーホール 6億3,963万円
- ③発電所の通信環境改善 6,486万円

II 水道・工水の安定供給

- ①施設の機能維持対策 4,220万円
- ②管路の更新 9億3,000万円
- ③漏水検知システム構築 1,090万円
(県立大学等と共同研究)
- ④管路台帳システム構築 2,400万円

III 技術系職員の確保 100万円
【連携】(経管、生環、土木、教委、人委)

- ①若手職員による出身大学訪問
- ②高校生等の現場見学会の実施
- ③就活生向け情報発信の充実

I 電気の安定供給

- ①: 3発電所の工事進捗、**発電電力量の増16,293MWh/年**
(リプレース後(R10)、小水力発電所約6か所分)
- ②: 発電所の長寿命化
- ③: 発電所(4か所)の保守管理の効率化、異常の早期発見

II 水道・工水の安定供給

- ①: 機能維持対策が着工に向けて進捗
- ②: 管路更新が計画的に進捗
- ③④: 漏水検知の早期化、現場の施工性の向上

III 技術系職員の確保

- ①: 訪問5校
- ②: 見学受入れ50人
- ③: HPアクセス数の増

- ・県営の電気と水道を県民が安心して利用
⇒**安全・安心な県民生活や事業活動が持続**
- ・再生可能エネルギーの拡大
⇒カーボンニュートラルやSDGsが進展
- ・工水システム全体の冗長性の向上
⇒**産業基盤が充実**
- ・安定供給を担う技術職員の充足とDX促進
⇒技術力の維持確保、業務効率化の進展

安心・心の余裕

- ・住まいの快適・安全・安心感

つながり (富山県)

- ・富山県での暮らしの安心感
- ・富山県への愛着や誇り
- ・富山県の未来への期待や楽しみ、ワクワク感
- ・富山県での暮らしをすすめた気持ち

4 - ⑤ 食を通じた県民の幸せ実感の向上

健全な食生活を通じて県民が心身の健康維持・増進に努めている。
県民が「とやまの食」に愛着と誇りを持ち、農林水産業への理解と応援する機運が高まっている。

ありたい姿・
実現したい未来

課題

- ・食育の関心は高いが、栄養バランスのよい食生活が実践されていない（特に若い世代の意識や実践が不十分）
- ・「とやまの食」に満足感はあるが、県産品の購入者が少なく、学校給食での利用率も低い→「とやまの食」を支える農林水産業への理解と応援が必要

背景・現状

- 食育に関心がある 90.0%
- カロリーや栄養バランスを考えて食事する 54.0%
(20代以下が32%と低い)
- 県産品を意識して購入する 56.7%
(20代以下が37%と低い)
- 学校給食の県産食材利用率 23.4%
- R4ウェルビーイング県民意識調査
- ・富山県で暮らしていて、「幸せ」を感じるの、は、どういことか「食」を挙げている方が多い
(回答者の約18%)
- ウェルビーイング指標
(10~40代平均)
心身の健康実感 3.15
つながり(家族) 3.41
つながり(富山県) 2.74

対象

消費者

特に

- ・若者世代
- ・子どもとその親（子育て世代）

実施事業
(インプット)

直接の結果
(アウトプット)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

- I 健康で豊かなくらし** ※②の事業費を除く
- ①とやま食育運動推進事業 992万円
三世代や若者を対象とした料理教室、講座の開催
 - ②(新)とやまの農業者応援プロジェクト事業 300万円
農業生産コスト高騰などの状況への消費者理解促進のため、消費者との交流や生産コストの啓発等を実施
 - ③【連携】栄養の日・栄養週間普及推進事業(厚生) 150万円
栄養バランスなど適正な食生活の普及啓発
 - ④食品安全確保総合対策事業 319万円
食品安全等へ理解促進、食品表示制度の普及啓発
- II 「とやまの食」を応援**
- ①地産地消推進事業 1,120万円
アプリ「食ベトクとやま」での旬情報発信、キャンペーン等による生産者応援の機運醸成
 - ②とやまグルメ・フードフェス開催事業 800万円
県産農林水産物等のPRや食への理解醸成
 - ③(拡)「とやまテロワールベジ」創造支援事業 400万円
土地の個性(テロワール)を活かした野菜の生産拡大と、新たなメニュー開発、飲食店等へのPR
 - ④食文化の継承と魅力発信事業 277万円
とやまの食文化の魅力をSNS等により発信
 - ⑤(拡)環境にやさしい農業「みどり戦略」推進事業 6,460万円
 - ⑥【連携】学校給食を通じた食育の推進(教委)

- I ①：三世代クッキングセミナー
参加者 延べ2,000人
若者向け食育講座・講演 5回
- I ②：交流イベント実施 2～4回
SNS等を通じた情報発信
- I ③：普及啓発の回数 9回
普及啓発の対象者 580人
- I ④：食品安全啓発対象2,000人
- II ①：地産地消 食ベトクアプリ
ユーザー数 11,000人
- II ②：来場者数 25,000人
- II ③：テロワール創造産地数5産地
テロワール使用飲食店等数の増
- II ④：YouTube、Instagram等の閲覧数の増
- II ⑤：有機農業の取組面積
(R2)219ha→(R8)300ha
- II ⑥：栄養教諭による地場産物に係る指導の月当たりの平均取組回数 12回

- ・食に関する知識の習得や食育の体験により、健全な食生活を実践する意識が向上する。
- ・家族等と一緒に食事や料理する機会や、食について考える時間が増加する。
- ・地域の食材や伝統食への理解が促進され、食や食文化に対する愛着や誇りが高まる。
- ・応援消費の機運が醸成され、地元の食材を積極的に購入(活用)しようとする行動が活発になる。
- ・生産者も消費者ニーズに応える農産品を生産しようとする。
- ・学校給食や授業で食に関する指導を多く受けることで、児童生徒の地産地消への意識が向上する。

ウェルビーイング向上

心身の健康

- ・身体と心がともに健康な状態
- ・将来の健康状態への安心感の向上

つながり(家族)

- ・家族等と嬉しい、楽しいなどポジティブな気持ちが共有できる

つながり(富山県)

- ・「とやまの食」への愛着が深まり、県産品を選びたい意識が向上
- ・県民が県産品を購入することで、生産者の意欲が向上
- ・消費者・生産者の相互理解と連携協力が深まり、持続可能な農業が実現する

ありたい姿・
実現したい未来

年齢や性別に関わらず、様々な人が、地域の維持・活性化に携わることで、自分らしくいきいきと暮らすことができるとともに、地域との豊かなつながりが生まれ、地域や富山の未来に希望を持つことができる。

課題

対象

特に

- ・40代50代のウェルビーイングが低く、その一因として地域・富山県とのつながりが希薄。地域活動への参加率も低い。
- ・中山間地域・田園地帯では、集落機能が低下している。
- ・地域活動への参加を通じ、地域資源の魅力を再認識するとともに、地域・富山県とのつながりを持つことで、総合実感を高めていく。

地域とのつながりが薄い30代～50代

30代～50代の
地域活動への参加に関心のある者

背景・現状

- ・**ウェルビーイング指標**
- つながり(地域) 30代 2.63
- つながり(富山県) 40代 2.57, 50代 2.51
- 生きがい・希望 40代 2.54, 50代 2.47
- 総合実感(未来) 40代 5.56, 50代 5.27
- ・県政世論調査R6
- 県外へ紹介できる県内魅力たくさんある16.0%
- 地域の活動への参加参加していないが今後は参加したい16.1%
- ・社会動態の推移(日本人) R5 : △2,067人

実施事業
(インプット)

直接の結果
(アウトプット)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング向上

- I 地域内での交流による
つながり創出・魅力発見**
- ・まちづくり組織創出モデル事業 300万円
 - ・中山間地域「話し合い」促進事業 800万円
 - ・中山間地域チャレンジ支援事業☆ 1,675万円
- II 地域外出身者も含めたつながり創出・魅力発信**
- ・【連携】持続可能な魅力ある田園地域創出事業(知政) 1,250万円
 - ・【連携】中山間地域保全パートナーシップ推進事業(農水) 300万円
 - ・【連携】富山の企業魅力発信プロジェクト事業☆(商労) 1,580万円
 - ・とやま移住魅力体験助成事業 270万円

- まちづくり組織を創出し
地域活動の機会をつくる**
- ・まちづくりコンテストへの応募団体 R7累計 40組織
 - ・「話し合い」支援地区数累計 R7累計 50地区
 - ・中山間地域における地域運営組織 R7累計73組織
- 地域との豊かなつながりで
多様な人材を惹きつける**
- ・自然風土文化を組み合わせた持続可能なまちづくりプロジェクトの創出 R6 4件
 - ・農業・農村サポーター活動参加者数 R7 245人以上
 - ・「就活ラインとやま」登録件数 企業約1,200社、求人約1,200件
 - ・県・市町村の相談窓口を通じた移住者数 R8 1,200人

- ・地域や社会に積極的に関与し、貢献できることで**自己有用感**が向上する
- ・前向きな**チャレンジ**を周りが尊重し、実現を応援することで、**他者への関心、相互理解**が深まる
- ・県内外の交流が広がり、地域や富山県の良さを再認識し、**愛着や誇り**が芽生える
- ・**生業**が生まれ、**持続可能な地域**のビジョンが展望でき、世界に誇れる田園地域となる

つながり (地域)

- ・地域での**自己有用感**
- ・生活の**やすらぎ・安心感**
- ・家庭・職場以外の「居場所」に

つながり (富山県)

- ・地域資源への**新たな価値創出**
- ・世界に誇れる富山県の**実現**

生きがい・希望

- ・前向きな**チャレンジ**による**自己実現**
- ・将来に**希望**を持って生活できる

総合実感 (未来)

- ・地域の**明るい未来**を展望
- ・持続可能で**自走するまちづくり**

4 - ⑦「デコ活 - 脱炭素につながる新しい豊かな暮らし-」の取組み拡大

【生活環境文化部】

「デコ活：CO₂を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)と、環境に良いエコ(Eco)を含む“デコ”と活動・生活を組み合わせた言葉」

環境配慮意識が高まり、行動が変容していくことにより、県民が負担に感じることなく脱炭素社会が実現している。

ありたい姿・
実現したい未来

課題

- ・県内の温室効果ガスの2割は家庭部門から排出され、カーボンニュートラル戦略の目標達成には、家庭部門で62%の削減が必要
- ・食品ロスや宅配便の再配達は、温室効果ガスの排出増につながり、対策が必要
- ・日常生活や買い物などの身近にできる(資源物回収、エコ商品購入)取組みの普及が必要
- ・住宅への省エネ設備や再エネ(太陽光発電等)の普及が必要

背景・現状

〇ウェルビーイング指標

- ・経済的なゆとり
- ・安心・心の余裕
- ・つながり(家族)
- ・つながり(富山県) (うち未来に期待や楽しみ、ワクワクする気持ち)
- ・思いやり(うち、他の人のために適切な対応を心がけている)
- ⇒これらは、年代が20代から40代に上がるほど低下する傾向がみられる
- 〇県政世論調査(R4)
- ・カーボンニュートラルへの関心度 全世代と比較して20代～40代の割合が低い

対象

家庭 (20代～40代の家庭)

特に

小学生のいる親子、若者の世代 (20～40代)

実施事業
(インプット)

直接の結果
(アウトプット)

影響・変化
(アウトカム～インパクト)

ウェルビーイング向上

I エコライフスタイルの普及

- ①とやま環境未来チャレンジ事業 350万円
- ②食ロスゼロアクション推進事業 200万円
- ③エコな配達推進事業 150万円

II 脱炭素に向けた暮らしへの転換

- ①再生可能エネルギー導入促進事業 5,972万円
- ②省エネ家電・機器買い換え促進による生活者支援事業 3億円※R7.2補
- ③【連携】^新富山型高性能住宅推進事業 (土木) 5,530万円
- ④【連携】EV導入促進事業 (知政) 3,500万円

I エコライフスタイルの普及

- 【 】: 目標
- ①環境未来チャレンジ10の参加校 約4割(R6)【参加可能な全小学校】
 - ②食ロス削減の取組み 88.6%(R5)【90%以上(R12)】
 - ③再配達の割合 9.4%(R6.4)【7%(R12)】
 - 〇デコ活の認知度 [調査中] (R7.3)【90%(R12)】

II 脱炭素に向けた暮らしへの転換

- ①太陽光発電・蓄電池等の補助件数 164件(R7)
- ②省エネ家電・機器の支援件数 8,057件(R7)
- ③県独自の基準を満たす高性能住宅への補助件数 80戸(R7)
- ④EV導入台数 250台(R7)
充電設備導入台数 急速5台、普通40台(R7)

- ・子どもと親が一緒になった家庭での取組みの拡大
- ・食品ロスや再配達の削減に取り組む若者の拡大
- ・脱炭素の実現に向けた「デコ活」に取り組む人の拡大
- ・日常生活や商品購入時における環境配慮行動の拡大
- ・住宅への太陽光発電や省エネ家電等の普及拡大
- ・省エネ住宅の普及
- ・ガソリン車の削減、EVの普及拡大

経済的なゆとり

- ・省エネによる光熱費の削減
- ・設備の長寿命化

安心・心の余裕

- ・子どもたちの将来の安心感
- ・災害時の活用(太陽光)

つながり(家族)

- ・親子でのエコ活動実践によるつながりの実感

つながり(富山県)

- ・県内で環境を守る取組みの輪が拡大、つながりを実感

思いやり

- ・生産者、提供者への思いやり